

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬品物理化学	職名 教授	氏名 秋澤 宏行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年1月10日	科目「化学熱力学」において、視聴覚資料を利用した講義を行った。(授業評価: 3.78)
		2014年4月15日	科目「溶液化学」において、視聴覚資料を用いた講義を行った。また、その講義は、学生が理解を深めることができるように、問題演習とも組み合わせた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年9月5日	前任大学での科目「基礎薬学I実習」のなかの放射薬品学実習の実習書の改訂を行った。
		2010年11月5日	共著(第2章担当)で無機化合物・錯体[第2版]—生物無機化学の基礎—(廣川書店)を出版した。
		2011年12月30日	共著(第4章後半部担当)でNEW 放射化学・放射薬品学 第2版(廣川書店)を出版した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2011年10月31日	旭川医科大学病院薬剤部から招かれて、「放射性医薬品の基礎と取扱いの注意事項」について講演を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Renal uptake and metabolism of radiopharmaceuticals derived from peptides and proteins.	共著	2008年9月	Adv. Drug Deliver. Rev., 60 (12), 1319-1328.
(著書) Technetium-99m radiopharmaceuticals for monitoring drug resistance. In: Technetium-99m Radiopharmaceuticals: Status and Trends.	共著	2009年12月	In: Technetium-99m Radiopharmaceuticals: Status and Trends., IAEA, Vienna, pp. 255-267.
(論文) In vitro and in vivo evaluations of a radioiodinated thymidine phosphorylase inhibitor as a tumor diagnostic agent for angiogenic enzyme imaging.	共著	2010年5月	Nucl. Med. Biol., 37 (4), 427-432.
(論文) Renal brush border enzyme-cleavable linkages for low renal radioactivity levels of radiolabeled antibody fragments.	共著	2013年2月	Bioconjugate Chem., 24 (2), 291-299.
(論文) Design, synthesis and biological evaluation of negatively charged ¹¹¹ In-DTPA-octreotide derivatives.	共著	2014年2月	Bioorg. Med. Chem., 22 (4), 1377-1382.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月		学会名

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
2008年11月～2009年7月	アイソトープ・放射線研究発表会運営委員
2009年4月～2011年3月	日本薬学会トピックス専門小委員
2011年3月～2012年3月	日本薬学会第132年会プログラム編成委員
2013年12月～2014年11月	アイソトープ・放射線研究発表会運営委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 統合感染免疫学	職名 教授	氏名 石戸 聡
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年4月10日～7月10日	科目「身体をまもるシステム」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価：4.32)	
	平成25年5月30日～6月27日	科目「ミクロの世界の生き物」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価：4.22)	
	平成25年6月10日～7月4日	科目「遺伝子操作とバイオ医薬品」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価：4.34)	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成25年9月19日～10月10日	科目「微生物学実習」に関する実習書を刊行した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Loss of MHC II ubiquitination inhibits the activation and differentiation of CD4 T cells.	共著	2014年5月	Int. Immunol. 26(5):283-9.
Multidimensional umbrella sampling and replica-exchange molecular dynamics simulations for structure prediction of transmembrane helix dimers.	共著	2014年2月	J. Comput. Chem. 5:35(4):300-8.
MITOL regulates endoplasmic reticulum-mitochondria contacts via Mitofusin2.	共著	2013年7月	Mol. Cell. 51(1):20-34.
MARCH1-mediated MHCII ubiquitination promotes dendritic cell selection of natural regulatory T cells.	共著	2013年6月	J Exp Med. 3:210(6):1069-77.
Encounter with antigen-specific promoted CD4 cells promotes MHC class II degradation in dendritic cells.	共著	2012年11月	Proc. Natl. Acad. Sci. U S A. 20:109(47):19380-5.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Loss of MHC II ubiquitination induces negative consequence to dendritic cells		2014年6月	8th International Workshop on Antigen Processing & Presentation
Loss of MHC class II ubiquitination negatively regulates dendritic cells		2013年7月	THE 35th NAITO CONFERENCE
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成24年10月～平成28年9月		日本免疫学会評議委員	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 生化学	職名 教授	氏名 伊東 進
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年9月30日	科目「バイオテクノロジー」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 3.9)
		2011年3月31日	科目「遺伝子」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。
		2011年3月31日	科目「細胞を構成する分子」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。
		2011年9月30日	科目「バイオテクノロジー」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 3.8)
		2012年3月31日	科目「細胞を構成する分子」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.0)
		2012年3月31日	科目「遺伝子」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 3.9)
		2012年9月30日	科目「バイオテクノロジー」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。
		2013年3月31日	科目「細胞を構成する分子」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.0)
		2013年3月31日	科目「遺伝子」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 3.9)
		2013年9月30日	科目「バイオテクノロジー」において、学外講師を招き共同で実習教育を行い、実践的教育を充実した。(授業評価: 3.8)
		2013年9月30日	科目「生命体の基本単位としての細胞」において、学外講師を招き共同で実習教育を行い、実践的教育を充実した。(授業評価: 3.9)
		2014年3月31日	科目「遺伝子」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.0)
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年9月20日	科目「遺伝子」に関する参考書「がん増殖と悪性化の分子機構」を刊行した。
		2014年4月1日	科目「遺伝子」の教科書「薬学のための分子生物学」を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) TMEPAI, a transmembrane TGF- β -inducible protein, sequesters from active participation in TGF- β signaling	共著	2010年1月	Mol. Cell, vol 37, No.1, 123-134

(論文) Requirement of TCF7L2 for TGF- β -dependent transcriptional activation of the TMEPAI gene.	共著	2010年12月	J. Biol.Chem., vol. 285, No. 49, 38023-38033
(著書) がん増殖と悪性化の分子機構 regulator of transforming growth factor- β signaling	共著	2012年9月	化学同人
(著書) 薬学のための分子生物学	共著	2014年4月	廣川書店
(論文) C18 ORF1, a novel negative regulator of transforming growth factor- β signaling	共著	2014年5月	J. Biol. Chem., vol. 289, No. 18, 12680-12692
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2013年4月～現在	日本薬学会関東支部幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 学修支援室	職名 教授	氏名 宇都宮 郁
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2009年3月31日	科目「免疫学」において、板書による丁寧な講義を行った。(授業評価：3.9)	
	2012年9月30日	科目「生体機能調節と生理活性分子Ⅱ」において、パワーポイントを用いた講義を行った。(授業評価：4.0)	
	2013年9月30日	科目「疾患と薬物治療Ⅲ」において、動画やビデオを活用した講義を行った。(授業評価：4.1)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2009年10月29日	科目「免疫学」に関する対策本「薬学CBTこあかり2 物質と生命」を刊行した。	
	2014年2月28日	科目「基礎生物学」の教科書「薬学生のための基礎シリーズ：基礎生命科学」を刊行した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2013年9月11日	教授会において、「学修支援に対する抱負」を説明した。	
	2013年11月12日	帝京大学で開催された「教育ピアレビュー」において、学修支援について意見交換を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年10月25日	本学のFDワークショップ（衛生分野）に参加した。	
	2014年3月15日	本学のFDワークショップ（大学院）に参加し、司会を担当した。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）薬学CBTこあかり2 物質と生命	共著	2009年10月	医学評論社
（著書）薬学生のための基礎シリーズ：基礎生命科学	共著	2014年2月	培風館
（論文）Identification of amino acids in the pore region of Kv1.2 potassium channel that regulate its glycosylation and cell surface expression.	共著	2010年2月	J. Neurochem. vol.112 No.4 913-923.
（論文）Chronic administration of cardanol (ginkgol) extracted from Ginkgo biloba leaves and cashew nutshell liquid improves working memory-related learning in rats.	共著	2012年1月	Biol. Pharm. Bull. vol.35 No.1 127-129.
（論文）Effect of paclitaxel on transient receptor potential vanilloid 1 in dorsal root ganglion.	共著	2013年6月	Pain vol.154 No.6 882-889.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）パクリタキセル誘発末梢神経障害モデルラットにおける脊髄でのP2X ₄ 受容体の関与		2014年10月	58回日本薬学会関東支部大会
（演題名）オキサリプラチン誘発末梢神経障害におけるCa ²⁺ チャネルサブユニットCa _v 2.1の関与		2014年10月	58回日本薬学会関東支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2008年4月～2014年5月 現在		日本薬理学会評議員	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 体育学	職名 教授	氏名 江成 元伸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年7月1日	科目「運動と健康」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.3)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2014年4月7日	科目「運動と健康」において毎時間「運動と健康」の配付資料を作成した。	
	2008(～2013)年 4月～7月	科目「運動と健康」において毎時間「運動と健康」の配付資料を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 2013コーチレフェリーシンポジウム資料 HANDBALL	共著	2013年4月	(財)日本ハンドボール協会
(著書) ハンドボール競技規則2010年版	共著	2010年7月	(財)日本ハンドボール協会
(著書) 大会開催マニュアル平成21年度版	単著	2009年7月	(財)日本ハンドボール協会
(著書) マッチバイザーの任務平成21年度版	単著	2009年7月	(財)日本ハンドボール協会
(著書) テクニカルでレゲートの任務平成26年度版	単著	2014年3月	(財)日本ハンドボール協会
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2008年4月～2014年5月 現在	公益財団法人日本ハンドボール協会常務理事		
2008年4月～2014年5月 現在	公益財団法人日本体育協会国体競技運営部会員		
2014年4月～2014年5月 現在	全日本社会人ハンドボール連盟理事長		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬品化学	職名 教授	氏名 岡本 巖
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年9月～1月 2009年9月～1月 2010年4月～7月 2011年4月～7月 2012年4月～7月 2013年4月～7月 2014年4月	科目「基礎有機化学Ⅰ」において、基礎薬学の分野でも基礎となる、有機化学の基本的反応等を講義した。講義時間中にある程度の理解を達成するために、スライド等は使用せずに時間をかけて反応機構を板書中心に説明した。分子模型を実際に使用させて、立体化学を理解させることを重点的に行った。(授業評価: 3.9, 4.2, 4.3, 4.4, 4.5, 4.2)
		2009年6月～7月	科目「薬学英語Ⅲ-1」において、薬学の実践で用いる英語を念頭におき、研究分野に於ける英語の重要性和、実験報告を英語で行うことを取り上げた。主体的に取り組むように、ディスカッション形式も取り入れた。(授業評価: 4.0)
		2013年5月	科目「化学系特論」において、生命化学における重要問題を、化学の視点から取り上げた。実際に想像が容易な問題を取り上げ、課題として扱った。
		2008年9月～10月 2009年9月～10月 2010年9月～10月 2011年4月～5月 2012年4月～5月	科目「有機化学実習Ⅰ」において、医薬品を含む化学物質の基本的な反応性を理解するための有機化学実習。初めて有機化学を実際に実験として行う実習であり、分離・精製操作から誘導体合成まで扱う。
		2012年6月 2013年6月	科目「有機化学実習Ⅱ」において、医薬品の合成を主とした有機化学実習。実際に装置を組み立て反応をかけることで、有機合成と反応を理解する実習。
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年～2010年9月 2011年～2012年4月	実習における安全から、基本的操作、また原理と応用について詳細に述べた教材を作成した。
		2012年3月15日	科目「基礎有機化学Ⅰ」に関する参考書「基礎有機化学」を共著にて刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Polymorphism and Pseudopolymorphism of an Aromatic Amide: Spontaneous Resolution and Crystal-to-Crystal phase Transition.	共著	2008年10月	Crystal Growth & Design, 8 (10), 3871-3877.

Synthesis and evaluation of opioid receptor-binding affinity of elaeocarpenine and its analogs.	共著	2010年9月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, 20 (5), 1601-1603.
Convenient Synthesis of Aminopyridinecarboxylic Acids.	共著	2011年9月	Heterocycles, 83 (10), 2343-2352.
Acid-Induced Conformational Alteration of cis-Preferential Aromatic Amides Bearing N-Methyl-N-(2-pyridyl) Moiety.	共著	2011年9月	Tetrahedron, 67 (44), 8536-8543.
Redox-Responsive Conformational Alteration of Aromatic Amides Bearing N-Quinonyl System.	共著	2012年6月	Tetrahedron, 68 (27-28), 5346-5355.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Conformational preferences and alteration of N,N-diaryl amides bearing tropolone and pyridine.		2014年8月	248th American Chemical Society National Meeting & Exposition
（演題名）Acid-induced folding of aromatic N-methyl amides bearing pyridine-2-carboxylic amides.		2014年8月	248th American Chemical Society National Meeting & Exposition
（演題名）N-ピリジル型およびN-トロポニル型芳香族アミドの立体構造特性と構造変換		2014年9月	第44回複素環化学討論会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 衛生化学	職名 教授	氏名 小椋 康光
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年3月31日	科目「食品衛生学」において、独自に編集した副教材を利用した講義を行った。(授業評価: 4.10)
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年4月1日 2013年9月1日 2014年2月1日	科目「食品衛生学」に関する教科書「衛生薬学」を刊行した。 科目「衛生化学実習」の実習書「衛生化学実習書」を作成した。 卒業研究教育の参考書として「毒性の科学」を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2012年12月19日	本学のFDワークショップを企画・運営した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Toxicological and pharmacological analysis of selenohomolanthionine in mice.	共著	2013年1月	Toxicol. Res., vol.2, 115-122
(著書) 食品中の微量元素	共著	2013年1月	日本食品衛生協会
(著書) 衛生薬学	共著	2013年4月	丸善
(著書) 生物学辞典	共著	2013年5月	岩波書店
(著書) 毒性の科学	共著	2014年2月	東京大学出版会
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) PC12細胞の神経分化に伴う細胞内銅濃度と銅制御因子群の変動		2014年7月	日本微量元素学会年会
(演題名) CHANGES IN INTRACELLULAR COPPER CONCENTRATION AND EXPRESSION OF COPPER-REGULATING GENES AFTER DIFFERENTIATION OF RAT PHEOCHROMOCYTOMA (PC12) CELLS INTO NEURAL CELLS		2014年8月	17th Biennial National Atomic Spectroscopy Symposium
III 学会および社会における主な活動			
2008年1月～2014年7月 現在	日本微量元素学会 評議員		
2009年1月～2010年12月	日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		
2009年1月～2014年7月 現在	英国王立化学会 Metallomics誌 International Advisory Board、Editorial Board		
2009年4月～2012年3月	日本分析化学会 ぶんせき誌 編集委員、編集幹事		
2009年6月～2014年7月 現在	日本薬学会 環境・衛生部会 常任世話人		
2010年2月～2014年7月 現在	日本薬学会 代議員		
2010年2月～2014年7月 現在	医薬品医療機器総合機構 専門委員		
2010年4月～2014年7月 現在	日本薬学会編 衛生試験法・注解2015 編集委員長		
2011年4月～2014年7月 現在	CBT問題精選委員		
2012年1月～2013年12月	日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		
2013年1月～2014年7月 現在	日本毒性学会 評議員		
2013年1月～2014年7月 現在	J Anal Bioanal Technol誌 Accosiate Editor		

2013年7月～2014年7月 現在	英国王立化学会 フェロー
2014年4月～2014年7月 現在	薬剤師国家試験出題委員
2014年6月～2014年7月 現在	経済産業省金属の生物蓄積性に関する検討委員会委員
2014年6月～2014年7月 現在	Fund Toxicol Sci誌 Associate Editor

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 生薬学	職名 教授	氏名 北島 潤一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年5月29日	科目「漢方処方」において、漢方処方を自己選択し調剤を行う実習講義を行った。(授業評価: 4.2)	
	同年10月2日	科目「生薬学実習」において、漢方煎じ薬の味見をする実習を行った。(授業評価: 4.1)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年3月5日	科目「生薬学II」に関する教科書「新訂生薬学」を刊行した。	
	2013年9月10日	科目「生薬学実習」の実習書「生薬学実習要項」を作成した。	
	2014年4月1日	科目「漢方処方」の教材「漢方処方」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Key Role of Chemical Hardness to Compare DPPH Radical Scavenging Power of Flavone and Flavonol O-Glycoside and C-Glycoside Derivatives	共著	2012年1月	Chem. Pharm. Bull., 60(1), 37-44 (2012)
(論文) Intrnal and external flavonoids from the leaves of Japanese Chrysanthemum species (Asteraceae)	共著	2012年4月	Biochemical Systematics and Ecology, 41, 142-149 (2012)
(論文) Identification of novel C-glycosylflavones and their contribution of flower colour of the Dutch iris cultivars	共著	2013年6月	Plant Physiology and Biochemistry, 72, 116-124 (2013)
(著書) 植物色素フラボノイド	共著	2013年6月	文一総合出版
(論文) Flavones and anthocyanins from the leaves and flowers of Japanese Ajuga species (Lamiaceae)	共著	2014年3月	Biochemical Systematics and Ecology, 51, 123-129 (2013)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2006年4月～2014年5月 現在	公益社団法人日本生薬学会学会評議員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の 英語	職名 教授	氏名 鈴木 英明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年9月30日	科目「薬学英语入門Ⅰ」において、薬学準備教育ガイドラインに準拠した教科書を用い、創意工夫をしながら授業を行った。(授業評価：3.8)	
	2013年9月30日	科目「薬学英语入門Ⅱ」において、英語の苦手な学生に対して、英語の基礎から無理なく学べる授業を行った。(授業評価：3.9)	
	2013年9月30日	科目「薬学英语入門Ⅲ」において、教材に最新の英字新聞やTOEIC対策用の問題集を用いて、実用的な英語力が身につく授業を行った。(授業評価：4.0)	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 隔たりの経験——ポール・ド・マン「時間性の修辞学」における壁	単著	2009年10月	レイモンド・ウィリアムズ研究会、『レイモンド・ウィリアムズ研究』(1), 55-73
(論文) オスカー・ワイルドにおける疎外論の不可能性と不可避性	単著	2011年3月	日本オスカー・ワイルド協会、『オスカー・ワイルド研究』(12), 65-71
(論文) Arnoldian State as a Whole Community: The State and the Idea of Community in Raymond Williams's Culture and Society	単著	2012年7月	レイモンド・ウィリアムズ研究会, <i>Raymond Williams Kenkyu</i> , Special Issue, 106-112.
(著書) オスカー・ワイルドの世界	共著	2013年5月	開文社出版
(著書) 文化と社会を読む 批評キーワード辞典	共著	2013年8月	研究社
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2007年4月～2014年5月 現在	日本ワイルド協会理事		

2012年4月～2014年5月 現在	日本英文学会編集委員会委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 漢方治療学教育 の名 高野	職名 教授	氏名 高野 昭人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008 ~	科目「生薬学Ⅰ」において、カラー写真資料を作成配布し、授業中に学生が必要事項を書き込み、整理できるように工夫した。(授業評価(2013): 3.8)
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年5月10日	科目「生薬学Ⅰ」でカラー配布資料を作成した。
		2013年9月5日	科目「生薬学Ⅰ」の教科書「薬用植物学改訂第7版」(共著)を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2010年7月	第18回医療薬学フォーラム(広島)にて「くさび型教育による実務実習事前学習」に関するポスター発表
		2011年3月	日本薬学会第131年会(静岡)にて、長期実務実習を実施した学生及び指導薬剤師に対する意識調査の結果をポスター発表。
		2011年3月	日本薬学会第131年会(静岡)にて、実務実習事前学習の薬局製剤実習の取り組みについてポスター発表。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 日本の有毒植物	共著	2012年5月	学研教育出版
(論文) Efforts of Showa Pharmaceutical University toward Pre-training for Clinical Pharmacy Practice and Its Assessment	共著	2010年12月	Journal of Essential Oil Research, 22, 263-269
(論文) Composite Constituent: Lactucenyl Acetate, a Novel Migrated Lupane Triterpenoid from <i>Lactuca indica</i> Revision of Structure of Tarolupenyl Acetate	共著	2011年6月	Chem. Pharm. Bull., 59(6), 767-769
(論文) Diterpene and Triterpene Glycosides from <i>Rubus pedunculosus</i> D. Don in Nepal	共著	2012年2月	生薬学雑誌, 66(1), 26-27
(論文) The Identification of Vitamin E Homologues in Medicinal Plant Samples Using ESI(+)-LC-MS3	共著	2012年8月	J. Agricultural and Food Chemistry, 60(38), 9581-9588
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 中国産 <i>Adiantum davidii</i> のトリテルペノイド		2014年9月	日本生薬学会第61回年会(福岡)
(演題名) 中国広東省汎用生薬広東土槿皮の生薬学的研究		2014年9月	日本生薬学会第61回年会(福岡)
III 学会および社会における主な活動			
2012年4月~2015年3月 現在	山梨県森林総合研究所 客員研究員		
2013年4月~2015年3月 現在	独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員(日本薬局方原案委員会生薬等(B)委員会)		
2014年3月~2016年2月 現在	厚生労働省 日本薬局方外生薬規格検討委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 薬品作用学教育 の名 田口	職名 教授	氏名 田口 恭治
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2014年5月27日	科目「細胞の機能」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価：4.0)	
	2014年6月23日	科目「臨床試験の評価法」において、学外講師を招き共同でSGDを行い自主的な学習を進めた。(授業評価：4.0)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年9月1日	科目「薬物治療学」に関する教科書「薬学生のための病態生理と薬物治療」を刊行した。	
	2014年5月1日	科目「実務実習事前学習」の実習書を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2013年10月2日	日本医療薬学会において、「6年次学生に対するフィジカルアセスメント実習実施とその評価」を発表した。	
	2014年3月30日	日本薬学会において、「薬学部4年生を対象にしたインスリン自己注射針の穿刺及び血糖自己値測定の体験実習とその教育効果」を発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Single administration of 1-benzyl-1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline increases the release of dopamine in the striatum	共著	2008年2月	Neuroscience 160, 820-828 (2009)
（論文）IgM anti-GQ1b monoclonal antibody inhibits voltage-dependent calcium current in cerebellar granule cells	共著	2009年12月	Experimental Neurology 219, 74-80 (2009)
（論文）Identification of amino acids in the pore region of Kv1.2 potassium channel that regulate its glycosylation and cell surface expression	共著	2010年3月	Journal of Neurochemistry 112, 913-923 (2010)
（論文）IgG anti-GalNAc-GD1a antibodies bind to neuromuscular junctions of rat hemi-diaphragm	共著	2012年4月	Muscle and Nerve 46, 505-710 (2012)
（論文）Effect of paclitaxel on transient receptor potential vanilloid 1 in rat dorsal root ganglion	共著	2013年3月	Pain 154, 882-889 (2013)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）パクリタキセル誘発末梢神経障害モデルラットにおける脊髄でのP2X ₄ 受容体の関与		2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2008年4月～2014年5月 現在	公益社団法人日本薬理学会 学術評議員		
2010年4月～2014年5月 現在	特定非営利活動法人 CBT 問題管理委員		
2013年7月～2014年5月 現在	一般社団法人日本緩和医療薬学会 評議員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬化学	職名 教授	氏名 田村 修
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年5月, 6月	有機化学実習において、グループごとに面接にて試験を行っている。実習内容、実験操作、その実験の背景となる化学的な理論に付いて口頭試問を行っている。場合によっては、その場で書かせる場合もある。学生はこの面接の前に集中的に勉強している。	
	2013年3月31日	科目「基礎有機化学II」において、ほぼ毎回小テストを行い、学生間で交換して採点を行わせ、解答者、採点者の双方の名を書き、提出させた。その答案は回数し、チェックし、解答例と共に自習返却した。これにより、学生の理解度をチェックした、メリハリを与えた。(授業評価: 3.9)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年12月10日	ベーシック薬学教科書シリーズ「有機化学」を共著で刊行した。	
	2009年10月29日	CBT用参考書「薬学CBTこあかり2」を共著で刊行した。	
	2009年6月8日	卒論研究の参考書「天然物の全合成」化学同人を共著で刊行した	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年11月12日	薬学教育懇話会 第2回教育ピアレビュー 帝京大学板橋キャンパスに参加した。	
	2014年	本学のFDの一環としてTBLワークショップを企画・運営した。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 天然物合成で活躍した反応	共著	2011年10月	化学同人
(著書) Methods and Applications of Cycloaddition Reactions in Organic Syntheses	共著	2014年2月	Wiley & Sons
(論文) Total Synthesis of Tubulysins	共著	2010年10月	Chemistry - A European Journal, 15 (38), 11678-11688.
(論文) Synthesis of the Proposed Structure of Phaeosphaeride A	共著	2011年9月	Organic & Biomolecular Chemistry, 9 (16), 5825-5832
(論文) Redox-Responsive Conformational Alteration of Aromatic Amides Bearing N-Quinonyl System	共著	2012年7月	Tetrahedron, 68 (27), 5346-5355.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) BF3・OEt2-Mediated Cycloaddition of (tert-Butyldimethylsilyloxyimino)acetic Acid N,N-Dimethylamide with Olefines		2014年8月	15th International Meeting on Boron Chemistry
(演題名) Radical Cyclization of ω-Alkynyl O-tert-Butyldiphenylsilyloximes Using 4-tert-Butylbenzenethiol		2014年10月	15th Tetrahedron Symposium
A Concise Synthesis of cis-HPA-12 Using Branonitrone species		2014年10月	15th Tetrahedron Symposium
Ⅲ 学会および社会における主な活動			

2008年3月～2011年2月	公益社団法人日本薬学会 ファルマシア委員
2009年3月～2012年2月	公益社団法人日本薬学会 Chemistry & Pharmaceutical Bulletin 編集委員
2011年3月～2013年2月	公益社団法人日本薬学会 ファルマシア アドバイザー
2013年3月～現在	公益社団法人日本薬学会 化学系薬学部会 広報担当

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬品分析化学	職名 教 授	氏名 知久馬 敏幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年9月18日 2009年4月4日 2009年12月22日 2010年5月27日 2010年9月8日 2011年3月8日 2012年3月14日 2012年9月15日 2013年3月14日 2014年4月2日	科目「分析化学」(授業評価: 3.7) 科目「薬局方概論」(授業評価: 3.8) 科目「細胞構成分子」(授業評価: 3.7) 科目「栄養と健康」(授業評価: 4.0) 科目「分析化学」(授業評価: 3.9) 科目「細胞構成分子」(授業評価: 3.8) 科目「英語 III」(授業評価: 4.0) 大学院科目「薬品分析学特論及び演習」(授業評価: 4.2) 科目「分析化学」(授業評価: 4.0) 科目「分析化学」(授業評価: 4.1) 科目「分析化学」(授業評価: 4.1) 大学院科目「医薬品・生体分子分析学特論及び演習」(授業評価: 5.0) 科目「分析化学」(授業評価: 4.0) 科目「分析化学」(授業評価: 3.8)
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年2月1日 2010年11月5日 2011年8月10日	科目「分析化学」と「機器分析」に関する教科書「分析化学 I」と「分析化学 II」を刊行した。 科目「生物無機化学」に関する教科書「無機化合物・錯体 第2版」を刊行した。 科目「分析化学」に関する教科書「NEW 薬学分析化学 第2版」を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			な し
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			な し
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Interleukin-6 induces prostaglandin E2 synthesis in mouse astrocytes	共著	2009年9月	J. Mol. Neurosci., 39 , 175-184.
(論文) Effects of memantine on soluble Aβ25-35-induced changes in peptidergic and glial cells in Alzheimer's disease model rat brain regions	共著	2009年12月	Neuroscience, 164 , 1199-1209.
(論文) Monitoring of methylephedrine in human breast milk by solid-phase extraction and high-performance liquid chromatography with fluorimetric detection	共著	2012年6月	Pharmazie, 67 , 482-484.
(論文) Monitoring of fluconazole in serum of patients undergoing hemodiafiltration by solid-phase extraction and high-performance liquid chromatography with ultraviolet detection	共著	2012年9月	Pharmazie, 67 , 765-767.

(論文) Approaches for cesium uptake by vermiculite	共著	2013年9月	J. Chem. Technol. Biotechnol., 88 , 1603-1605.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 金属マテリアルから発生させた水素分子および重水素分子の活性酸素ラジカル消去活性		2014年6月	第 24 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
	な し		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 臨床化学分析教育 千葉	職名 教授	氏名 千葉 良子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年4月～2014年5月 2008年9月～2013年1月	科目「薬局方概論」において、プリントを作成し、講義・演習を行った。(授業評価の平均: 4.0) 科目「臨床分析」において、プリントによる演習のほか、画像DVDを採り入れ視聴覚資料による講義を行った。(授業評価の平均: 3.8)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年4月～2014年4月 2010年5月～2010年8月	科目「実務実習事前学習」の実習テキストを作成した。(前・後期および導入実習) バイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習の構築を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) ハッカ油添加ネブライザー溶液の抗原性に関する研究	共著	2009年11月	Aroma Research, Vol10(4)
(論文) High performance liquid chromatographic determination of clarithromycin in lymphocytes using a post-column with tris(2,2'-bipyridine)ruthenium(III) chemiluminescence detection	共著	2010年1月	Journal of Health Science, 56(1)
(論文) Solid-phase extraction and determination in human serum by high-performance liquid chromatography using electrogenerated chemiluminescence detection	共著	2011年3月	Analytical Letters 44
(論文) 胃瘻 造設患者の口腔ケアに対するスギ葉精油の有用性	共著	2013年8月	Aroma Research, Vol14(2)
(論文) Bitterness evaluation to assist selection of generic drugs	共著	2013年5月	医薬品相互作用研究 35(3)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2008年1月～2014年5月現在	秋田産業サポータークラブ・企業振興育成WG委員 及び秋田杉活用と地域活性化WG委員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 医薬情報評価教育 戸田	職名 教授	氏名 戸田 潤
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年4月3日	科目「薬物治療特論Ⅱ」(5年次前・後期/臨床薬学コース)において、PBLを本格的に導入し、前年度より課題症例の数を半分に減らし、問題点の抽出作業や必要な知識・情報の調査とグループ討議の時間を大幅に増やすなど、方略に改善を加えた。(授業評価なし)	
	2013年11月6日	科目「臨床薬剤師入門」(2年次後期)の一部の授業にTBLを導入し、学生の自主的な学習を高める工夫をした。(授業評価なし)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年4月1日	科目「実務実習事前実習」(3年次後期、4年次前・後期のための本学独自の実習書および症例のシナリオ、模擬処方せんの内容を検討し作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2010年10月2日	第54回日本薬学会関東支部大会(東京)のシンポジウムで「動き出した長期実務実習一円滑に行うための問題点とその対応策」をテーマに発表した。	
	2010年10月10日	第43回に本薬剤師会学術大会(長野)のシンポジウムで「長期実務実習元年 一実りある実務実習を求めて」をテーマに発表した。	
	2011年2月11日	平成22年度日本薬剤師会薬局実務実習担当者全国会議で、「次世代の薬剤師養成」をテーマに、「1年目の実習を振り返って」と題して講演した。	
	2012年3月30日	日本薬学会第132年会(札幌)のシンポジウムで、「実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠した実習の成果と課題」と題して発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2010年7月23日	本学のFDワークショップを企画・運営した。演者：井下千以子教授(桜美林大学)「高度専門職教育における豊かな学びとはー発達論とカリキュラム論の視点からー」	
	2010年12月22日	本学のFD講演会を企画・運営した。演者：田野中浩一教授(東京薬科大学)「大学院の現状と課題」	
	2011年12月22日	本学のFD講演会を企画・運営した。演者：泉美貴教授(東京医科大学)「学生を惹き付ける授業の基本」	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 態度教育におけるグループワークの有効性について	単著	2009年3月	昭和薬科大学紀要, 43, 81-87
(論文) アンケートからみえてきた実務実習の成果と課題	単著	2011年1月	月刊薬事, 53 (1), 23-26
(論文) 薬物治療計画立案能力の修得における問題基盤型学習の効用	単著	2012年11月	医薬ジャーナル, 48 (11), 192-196
(論文) 授業改善の試みー薬物治療特論Ⅱの場合ー	共著	2013年3月	昭和薬科大学紀要, 47, 10-20
(論文) 薬局実務実習における薬学生の自己評価と指導薬剤師の学生評価の比較による到達度不十分な実習項目の分析	共著	2014年3月	昭和薬科大学紀要, 48, 13-27
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
		なし	
III 学会および社会における主な活動			
2009年4月～2011年3月	一般(社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構委員長		

2009年4月～2014年5月	現在	一般(社)薬学教育評価機構 総務・財務委員会委員
2010年4月～2014年5月	現在	公益(社)神奈川県薬剤師会 実務実習委員会委員
2012年10月～2014年5月	現在	一般(社)日本薬学会関東支部会 薬剤師向け研修講演会実行委員会ワーキンググループ
2013年4月～2014年5月	現在	一般(社)薬学教育評価機構 評価委員会委員および評価実施委員
2013年10月～2014年5月	現在	一般(社)薬学教育協議会 薬学教育調査・研究・評価委員会委員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 薬品作用学教育 の名 萩原	職名 教授	氏名 萩原 幸彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年3月31日	科目「生体機能調節Ⅰ」ではパワーポイントを使用した。授業評価：担当者4. 26、内容4. 18の評価を受けた。	
	2013年3月31日	科目「医薬品の安全性」では自作のプリントを使用した。授業評価：担当者4. 16、内容4. 13の評価を受けた。	
	2013年9月30日	科目「疾患と薬物治療Ⅰ」では自作のプリントを使用し自分が体験した疾患と入院・治療についてSB0に沿って授業を行った。授業評価：担当者4. 24、内容4. 20の評価を受けた。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 薬品作用学教育 の名 濱島	職名：教授	氏名：濱島 肇
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年3月21日	科目「感染制御学」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価：4.01)
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年2月5日	科目「微生物学・感染制御学」に関する教科書「新しい微生物学[第4版]」を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			無し
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			無し
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) High performance liquid chromatographic determination of clarithromycin in lymphocytes using a post-column with tris(2,2'-bipyridine) ruthenium(III) chemiluminescence detection	共著	2010年1月	J. Health Science, 56 , 14-19
(論文) Antibacterial activities against Staphylococcus aureus of terpene alcohols with aliphatic carbon chains	共著	2010年5月	J. Essential Oil Research, 22 , 263-269
(論文) Effect of farnesol on mevalonate pathway of Staphylococcus aureus	共著	2012年7月	J. Antibiot., 64 , 547-549
(論文) Effect of Silver-Loaded Zeolite on the Susceptibility of Escherichia coli Against Antibiotics.	共著	2012年1月	J. Biomater. Nanobiotechnol., 3 , 114-117
(論文) Electrochemical analysis of the redox state of silver contained in antibacterial material	共著	2012年4月	J. Biomater. Nanobiotechnol., 3 , 136-139
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
無し			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 薬剤師実務教育 の名 濱本	職名 教授	氏名 濱本 知之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年9月8日	科目「実務実習事前学習」において、バイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習を本学で初めて導入した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年6月以降	科目「実務実習事前学習」の実習書「実務実習事前学習 実習テキスト」を年度あたり3回、毎年度作成している。	
	2011年4月15日	科目「実務実習事前学習」に関する参考書「臨床調剤学」を刊行した。	
	2011年7月20日	科目「患者情報から病態を読む」に関する教科書「薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント」を刊行した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Effects of Showa Pharmaceutical University toward pre-training for clinical pharmacy practice and its assessment	共著	2010年12月	Journal of Drug Interaction Research (Japan), 34 (2), 27-33.
(論文) Nanoparticles electrostatically coated with folic acid for effective gene therapy	共著	2011年6月	Mol. Pharm., 8 (3), 913-919.
(論文) Report of the advanced practical training program of Showa Pharmaceutical University: questionnaire surveys on students and pharmacist instructors	共著	2012年3月	BULLETIN of Showa Pharmaceutical University, 46 , 1-12.
(論文) Effects and problems of education from first clinical pharmacy training at hospital in the six-year system of pharmaceutical education: questionnaire on students and instructing pharmacists	共著	同年4月	Journal of Drug Interaction Research (Japan), 35 (3), 31-40.
(論文) Current status of awareness and implementation of the "Yakuzai-Kanri Summary" in community pharmacies prescribing drugs under the health insurance system in Japan	共著	2013年6月	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci., 39 (6), 366-374.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
2012年4月～2014年3月	公益社団法人東京都薬剤師会 実務実習委員会委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 臨床化学分析教 の名 育 福森	職名 教授	氏名 福森 隆次
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2011年10月30日	科目「医薬品の安全性」において、薬剤師の薬の安全性に対する役割を理解させるために努力した。(授業評価: 3.4)	
	2012年10月15日	科目「生体機能調節」において、基礎学力の低い学生のため、プリントと板書を使い理解させることに努めた。(授業評価: 3.9)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年3月31日	科目「医薬品の安全性」に関する教科書「医薬品の安全性学」を刊行した。	
	2010年4月10日	科目「実務実習事前実習」の実習書「実務実習事前学習実習テキスト」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) ハッカ油添加ネブライザー溶液の抗原性に関する研究	共著	2009年4月	AROMA RESEARCH vol10
(論文) Effect of Showa Pharmaceutical University toward Pre-training for Clinical Pharmacy practice and Its Assessment	共著	2010年4月	医薬品相互作用研究vol34
(論文) 胃瘻造設患者の口腔ケアに対するスギ葉精油の有用性	共著	2013年2月	AROMA RESEARCH vol14
(著書) 医薬品の安全性学	共著	2010年3月	廣川書店
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2008年4月～2012年3月	日本薬理学会評議員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 生物系薬学教育 の名 船本	職名 教授	氏名 船本 常男
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年5月	科目「生物学 II」において、DVD資料等を用いる事による講義内容の充実を行った。(授業評価：4.17)	
	2012年9月	科目「生物学 I」において、身近な例をあげて講義内容の理解度を深めるよう努めた。(授業評価：4.02)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年9月	放送大学面接授業「実験基礎生物学」テキストを作成した。 ＜神奈川学習センター＞	
	2013年9月	科目「基礎生物実習」の実習書「基礎生物学実習テキスト」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年12月	本学のFDワークショップを企画・運営した。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
DNA Barcoding of <i>Panax</i> Species	共著	2011年1月	Planta Medica 77 (2) 182-187
Karyomorphological Studies in Some Species of <i>Parnassia</i> L. (Saxifragaceae s. l.) in East Asia, and Intraspecific polyploidy of <i>P. palustris</i> L.	共著	2012年6月	Journal of Botany 2012, Article ID 874256 doi:10.1155/2012/874256 10 pages
A comparative study of chromosome characters in four species of <i>Elsholtzia</i> Will. (Lamiaceae) in Japan and China	共著	2012年12月	Chromosome Botany 7 (4) 119-123
Molecular phylogenetics of <i>Chelonopsis</i> (Lamiaceae: Gomphostemmateae) as inferred from nuclear and plastid DNA and morphology	共著	2013年4月	Taxon 62 (2) 375-386
Pollen morphology of the East Asiatic genus <i>Chelonopsis</i> (Lamioideae: Lamiaceae) and allied genera, with reference to taxonomic implications and potential pollination ecology	共著	2013年10月	Plant Biosystems 147 (3) 620-628
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
染色体特性からみたシソ科Perillinae亜族に含まれる日本産3属の関係		2014年11月	国際染色体植物学会第9回大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			

2006年6月～2014年5月 現在	国際染色体植物学会評議員
2008年4月～2012年3月	国際染色体植物学会機関誌[Chromosome Botany]電子版編集長
1999年4月～2014年5月 現在	放送大学非常勤講師（実験基礎生物学）

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 薬品作用学教育 の名 堀口	職名 教授	氏名 堀口 よし江
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年9月30日	担当講義科目は無。薬学6年制の4年次の実務実習事前学習・実習の準備のため実習のやり方などを検討した。
		2009年3月31日	担当講義科目は無。薬学6年制の4年次の実務実習事前学習・実習の準備のため実習のやり方などを検討した。
		2009年9月30日	科目「医薬品の有機化学」において、医薬品の構造と作用の関係を講義した。毎回講義終了時にまとめを行うこと、また各講義の開始時に前回の講義のまとめと復習を行うよう工夫した。(授業評価 4.37)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当
		2010年3月31日	科目「医薬品の創製と最適化」において、医薬品の構造と作用の関係を講義した。毎回講義終了時にまとめを行うこと、また各講義の開始時に前回の講義のまとめと復習を行うよう工夫した。(授業評価 4.18)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当。
		2010年9月30日	科目「医薬品の有機化学」を担当した。毎回講義終了時にまとめを行うことなど工夫した。(授業評価 4.29)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当
		2011年3月31日	科目「医薬品の創製と最適化」を担当。講義においては毎回講義開始時と終了時に前回の講義の復習とまとめを行うよう工夫した。(授業評価 4.18)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当
		2011年9月30日	科目「医薬品の有機化学」と科目「医薬品の創製と最適化」を担当(医薬品の有機化学 授業評価 4.20)(医薬品の創製と最適化 授業評価 4.32)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当
		2012年3月31日	科目「医薬品の創製と最適化」を担当(授業評価 4.37)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当。
		2012年9月30日	科目「医薬品の有機化学」、「医薬品の創製と最適化」を担当。(授業評価 4.30)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当。
		2013年3月31日	科目「医薬品の創製と最適化」において、医薬品の構造と作用の関係を講義した。講義においては毎回講義終了時にまとめを行うこと、また各講義の開始時に前回の講義のまとめと復習を行うよう工夫した。(授業評価 4.37)
		2013年9月30日	科目「医薬品の有機化学」を担当。講義終了時のまとめと開始時に前回の講義の復習を行うよう工夫した。(授業評価 4.33)
		2014年3月31日	科目「医薬品の創製と最適化」担当。毎回の講義で重点項目の課題をだし、学生に解答させるなど工夫した。(授業評価 4.44)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年4月15日	科目「医薬品の有機化学」及び「医薬品の創製と最適化」に関する教科書「パートナー医薬品化学」を刊行した。
		2012年2月15日	科目「医薬品の有機化学」及び「医薬品の創製と最適化」に関する教科書「パートナー医薬品化学第2版」を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis of Chiral 3-Methyl- and 3-Methyl-N-propargyl-1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline and Prevention of MPP+-Induced Cytotoxicity	共著	2008年4月	Med. Chem., 2008 (4), 531-538.
(著書) Facile synthesis of 1-aryl-2,3-dihydro-1H-isoindoles by cyclization of N-formyliminium ion via geometrically disfavored 5-endo-trig process	共著	2009年3月	Heterocycles, 78, 1177-1181
(論文) Facile synthesis and in vitro properties of 1-alkyl- and 1-alkyl-N-propargyl-1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline derivatives on PC12 cells	単著	2009年6月	Eur. J. Med. Chem., 44, 4034-4043
(論文) Preventative effects of 1,3-dimethyl- and 1,3-dimethyl-N-propargyl-1,2,3,4-tetrahydro-isoquinoline on MPTP-induced Parkinson's disease-like symptoms in mice	共著	2010年6月	Brain Reserch 1321, 133-142
(論文) An efficient and convenient synthesis of 4,5,6,7-tetrahydrothieno[3,2-c]pyridines by a modified Pictet-Spengler reaction via a formyliminium ion intermediated	共著	2010年8月	Heterocycles, 81, 1903-1921
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：昭和薬科大学	研究室等の名 薬物治療学	職名：教授	氏名：水谷 顕洋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年11月30日	科目「大学院先端薬学特論」において、学外講師を招き、大学院生はもとより、学部学生にも生物科学の重要性を示す講義を企画した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年3月2日	科目「薬物治療学I, II, III」に関する教科書、Pharmacotherapy改訂2版を共著で刊行した。	
	2014年4月8日	科目「薬物治療学I, II, III」に関する教科書、やさしい臨床医学テキスト第3版を共著で刊行した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Phosphorylation of Homer3 by calcium/calmodulin-dependent kinase II regulates a coupling state of its target molecules in Purkinje cells	共著	2008年5月	J. Neurosci. 28 , 5369-6382
(論文) 80K-H Interacts with Inositol 1,4,5-Trisphosphate (IP3) Receptors and Regulates IP3-induced Calcium Release Activity.	共著	2009年1月	J Biol Chem 284 , 372-380
(論文) IRBIT coordinates epithelial fluid and HCO3-secretion by stimulating the transporters pNBC1 and CFTR in the murine pancreatic duct.	共著	2009年1月	J Clin Invest 119 , 193-202
(論文) Cot kinase promotes Ca2+ oscillation/calcineurin-independent osteoclastogenesis by stabilizing NFATc1 protein.	共著	2012年7月	Mol Cell Biol. 32 2954-2963
(論文) IRBIT mediates synergy between Ca2+ and cAMP signaling pathways during epithelial transport in mice.	共著	2013年7月	Gastroenterology. 145 , 232-241
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 化学系薬学教育 の名 毛利	職名 教授	氏名 毛利 邦彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年9月30日	科目「薬学の基礎としての化学：原子の構造と性質」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。化学の講義においては、毎回、最後にその日の講義内容に関する問題を解かせて学生の理解度をチェックし、次の講義冒頭にフィードバックしている（授業評価：3.8）。また、科目「早期体験学習/病院・薬局見学」を企画・運営した。他に、薬学専門系実習教育「物理化学」「有機化学I」を担当した。	
	2009年3月31日	科目「薬学の基礎としての化学：化学結合」において、視聴覚資料を多用した講義を行った（授業評価：4.0）。他に、薬学専門系実習教育「有機化学II」「天然物化学」を担当。	
	2009年9月30日	科目「薬学の基礎としての化学：原子の構造と性質」（授業評価：3.8）。また、科目「薬学への招待」においてアカデミック・リテラシーを含め薬学のイントロダクションをオムニバス形式でコーディネートした他、早期体験学習/病院・薬局見学、薬学専門系実習教育「物理化学」「有機化学I」を担当。	
	2010年3月31日	科目「薬学の基礎としての化学：化学結合」（授業評価：3.8）。科目「薬学英語入門」（授業評価：4.1）。他に、薬学専門系実習教育「有機化学II」「天然物化学」を担当。	
	2010年9月30日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応I」（授業評価：3.9）。また、科目「薬学への招待」の他、早期体験学習/病院・薬局見学、薬学専門系実習教育「物理化学」「有機化学I」を担当。	
	2011年3月31日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応II」（授業評価：4.3）。他に、薬学専門系実習教育「有機化学II」「天然物化学」を担当。	
	2011年9月30日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応I」（授業評価：4.4）。また、科目「薬学への招待」の他、早期体験学習/病院・薬局見学、薬学専門系実習教育「物理化学」「有機化学I」を担当。	
	2012年3月31日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応II」（授業評価：4.3）。他に、薬学専門系実習教育「有機化学II」「天然物化学」を担当。	
	2012年9月29日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応I」（授業評価：4.3）。また、科目「薬学への招待」の他、早期体験学習/病院・薬局見学、薬学専門系実習教育「有機化学I」を担当。	
	2013年3月30日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応II」（授業評価：4.3）。他に、薬学専門系実習教育「有機化学II」「天然物化学」を担当。	
	2013年9月30日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応I」（授業評価：4.1）。また、科目「薬学への招待」の他、早期体験学習/病院・薬局見学、薬学専門系実習教育「有機化学I」「有機化学II」を担当。	
	2014年3月31日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応II」（授業評価：4.0）。他に、薬学専門系実習教育「物理化学」を担当。	
	2014年5月1日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応I」。また、科目「薬学への招待」の他、早期体験学習/病院・薬局見学、薬学専門系実習教育「有機化学I」を担当。	

2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年7月22日	大学評価フォーラム、「学生からのまなざし—高等教育質保証と学生の役割」（大学評価・学位授与機構主催）に参加した。	
	2013年12月18日	FD委員長として、本学のFDワークショップを企画・運営した。	
	2014年3月9日	本学大学院FDの企画・運営とタスクフォースを担当した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Facile synthesis and in vitro properties of 1-alkyl- and 1-alkyl-N-propargyl-1,2,3,4-tetra-hydroisoquinoline derivatives on PC12 cells	共著	2009年5月	Eur. J. Med. Chem, 44 , 4034-4043.
（論文）Biomimetic Total Synthesis of (±)-8-Oxo-erymelanthine	共著	2009年8月	J. Org. Chem., 74 (16), 6010-6015.
（論文）AN EFFICIENT AND CONVENIENT SYNTHESIS OF 4,5,6,7-TETRAHYDROTHIENO[3,2-c]PYRIDINES BY A MODIFIED PICTET-SPENGLER REACTION VIA A FORMYL IMINIUM ION INTERMEDIATE	共著	2010年6月	Heterocycles, 81 (8), 1903-1921.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2011年5月～2014年5月 現在	本学評議員		
2012年4月～2014年5月 現在	一般財団法人 神林伊賀育英会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	昭和薬科大学	研究室等の名	薬物動態学	職名	教授	氏名	山崎 浩史
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				2011年9月1日	薬物動態I講義 (授業評価4.1)		
				2012年9月1日	薬物動態I講義 (授業評価4.0)		
				2013年9月1日	薬物動態I講義 (授業評価4.1)		
2 作成した教科書、教材、参考書				2010年2月22日	「薬物動態学」編著、廣川書店		
				2010年2月23日	「医療薬物代謝学」編著、医学評論社		
				2014年4月28日	「薬物動態学第二版」編著、廣川書店		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				2014年7月25日	「薬物動態研究・教育に役立つ情報検索」薬物動態データベースセミナー講演		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)				2011年12月17日	学部FD研修会グループリーダー		
				2012年12月17日	学部FD研修会グループリーダー		
				2013年12月17日	学部FD研修会グループリーダー		
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(著書) Fifty Years of Cytochrome P450 Research				編集/共著	2014年5月	Springer Japan, Tokyo	
(著書) Encyclopedia of Drug Metabolism and Interactions				共著	2012年4月	John Wiley & Sons, New York	
(論文) Approach for in vivo protein bindings of 5-n-butyl-pyrazolo[1,5-a]pyrimidine bioactivated in chimeric mice with humanized liver by two-dimensional electrophoresis with accelerator mass spectrometry				共著	2009年2月	Chem Res Toxicol. 23, 152-158	
(論文) Potential impact of cytochrome P450 3A5 in human liver on drug interactions with triazoles				共著	2010年4月	Br. J. Clin. Pharmacol. 69, 593-597.	
(論文) Survey of variants of human flavin-containing monooxygenase 3 (FM03) and their drug oxidation activities				共著	2013年4月	Biochem. Pharmacol., 85, 1588-1593.	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)					発表年・月	学会名	
医薬品開発におけるヒト代謝物研究の役割					2014年7月	第41回日本毒性学会年会	
Reactive metabolite formation of drugs by human P450s in chimeric mice with humanized liver					2014年10月	第29回日本/第19回国際薬物動態学会年会	
III 学会および社会における主な活動							
2006年4月～現在		内閣府食品安全委員会 専門委員					
2010年6月～現在		(一社)医薬品開発支援機構 総務担当理事					
2010年1月～2017年12月		日本薬物動態学会 理事					
2011年1月～2014年12月		国際薬物動態学会 理事					

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 医薬分子化学	職名 教授	氏名 山本 恵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年6月17日	科目「化学系特論」において、双方向の講義を行った。学生は自らの考えを発表し、レポートにもまとめた。(授業評価: 4.12)
		2013年5月21日	科目「分子標的医薬品の創製」において、外部講師を招き最新の情報を網羅した講義を行った。(授業評価: 4.08)
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2012年10月13日	第56回日本薬学会関東支部大会(東京)において、「6年制薬学のメリットを活かした基礎研究を」を講演した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2012年12月19日	昭和薬科大学のFDワークショップのグループリーダーを務めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Potent Antagonist for the Vitamin D Receptor: Vitamin D Analogues with Simple Side Chain Structure.	共著	2010年7月	J. Med. Chem. 53, 5813-5826 (2010).
Butyl pocket formation in the vitamin D receptor strongly affects the agonistic or antagonistic behavior of ligands.	共著	2012年4月	J. Med. Chem. 55, 4373-4381 (2012).
Design and characterization of a selenium-containing inhibitor of activated thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor (TAFIa), a zinc-containing metalloprotease.	共著	2012年8月	J. Med. Chem. 55, 7696-7705 (2012).
Structural basis for inhibition of carboxypeptidase B by selenium-containing inhibitor: Selenium coordinates to zinc in enzyme.	共著	2013年9月	J. Med. Chem. 56, 7527-7535 (2013).
A mixed population of antagonist and agonist binding conformers in a single crystal explains partial agonism against vitamin D receptor: Active vitamin D analogues with 22R-alkyl group.	共著	2014年4月	J. Med. Chem. 57, 4351-4367 (2014)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月		学会名
(演題名) ビタミンD受容体と共有結合するリガンドの創製研究	2014年6月		日本ビタミン学会第66回大会
Design, synthesis and characterization of selenium-containing inhibitors of activated thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor (TAFIa)	2014年6月		The 15th Tetrahedron Symposium

Design and synthesis of antagonist to prevent the active conformation of Vitamin D receptor	2014年6月	The 15th Tetrahedron Symposium
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2006年4月～2014年3月	日本ビタミン学会評議員	
2006年4月～2014年5月 現在	脂溶性ビタミン総合研究委員会委員	
2007年4月～2014年5月 現在	日本ビタミン学会幹事	
2008年4月～2014年5月 現在	東京医科歯科大学学生体材料工学研究所倫理審査委員	
2010年4月～2014年5月 現在	日本レチノイド研究会幹事	
2014年4月～2014年5月 現在	日本ビタミン学会代議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	昭和薬科大学	研究室等の名	薬剤師実務教育 山本	職名	教授	氏名	山本 美智子
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1	教育内容・方法の工夫	(授業評価等を含む)	2013年5月29日	科目「医薬品情報学」において、前回の復習のための小テストを課したり調査事項をレポートにまとめるなど自主的な学習を進めた。(授業評価：3.89)			
			2013年7月2日	科目「薬学への招待」において、PBLを積極的に行うに当たりSGDを編成し自主的な学習を進めた。			
			2013年5月20日	科目「薬物治療特論Ⅱ」において、PBLを積極的に行うに当たりSGDを編成し自主的な学習を進めた。			
2	作成した教科書、教材、参考書		2013年8月5日	科目「医薬品情報学」に関する教科書「図解 薬害・副作用学」を刊行した。			
			2014年1月20日	科目「医薬品情報学」に関する教科書「図解 医薬品情報学」を刊行した。			
			2014年4月30日	科目「事前学習」の実習書「事前学習手引き」を作成した。			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2013年7月19日	日本製薬医学会第 4 回年次大会において、「薬学部における医薬品安全性教育の取り組み」を講演した。			
			2013年9月13日	第 3 回レギュラトリーサイエンス学会シンポジウムにおいて、「薬剤師の教育：ファーマコビジランスの観点から」を講演した。			
			2013年10月14日	日本社会薬学会32年会において「医薬品の安全性に関する取り組みと課題－医薬品の評価情報基盤と人材育成に向けて－」の基調講演を行った。			
4	その他教育活動上特記すべき事項	(FDを含む)	2013年5月1日	熊本大学薬学部から招かれて、薬学教育に関する教育講演を行った。			
			2013年7月20日	三重大学医学部から招かれて、医薬品の安全性教育に関する教育講演を行った。			
			2013年12月20日	鈴鹿医療科学大学薬学部から招かれて、医薬品の安全性教育に関する教育講演を行った。			
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称			単著・共著の別		発行または発表の年月（西暦でも可）		発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) ステムを知れば薬がわかる			共著		2013年2月		じほう
(著書) 最悪に備えよ - 医薬品および他の医療関連危機を予測し回避または管理する			共著		2013年6月		じほう
(論文) A comparative study of the communication of drug safety information by government agencies in Japan and Western countries: the case of asthma medications			共著		2008年12月		Drug Inf. Journal., 42, 583-596.
(論文) Patient reports on adverse drug reactions: findings in a pilot study in Japan			共著		2013年10月		Pharmacoepidemiol Drug Saf., 22, 1134-1137.
(論文) Academic Detailing 医薬品適正使用のための根拠に基づくアプローチ 最適な薬物治療に向けたAcademic Detailingと薬剤師の役割			単著		2014年3月		薬学雑誌, 134(3), 355-362.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月		学会名
(演題名) Academic detailingの流れ					2014年8月		日本アプライド・セラピューティクス学会

(演題名) 医薬品の情報提供の今後を考える	2014年9月	日本レギュラトリーサイエンス学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2006年4月～現在	くすりの適正協議会専門委員	
2008年4月～現在	医薬品情報学会 研修委員会委員	
2010年4月～現在	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 専門委員	
2010年4月～現在	熊本大学薬学部臨床教授	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 臨床心理学	職名 教授	氏名 吉永 真理
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年9月30日	科目「人と文化Ⅳ 人間の行動と心理」において、ロールプレイを積極的に行い参加型の講義を進めた。(授業評価: 4.0)
		2012年3月31日	科目「人と文化Ⅳ 人間の行動と心理」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.2)
		2013年3月31日	科目「人と文化Ⅳ 人間の行動と心理」において、学外講師とともにワークショップ形式の講義を行い、学生の主体的学びを充実させた。(授業評価: 4.3)
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年3月31日	2009年度科目「薬学への招待」に初年次教育プログラムを導入する試みを行い、成果集をまとめた。
		2010年9月1日	科目「事前実習」に参加する模擬患者 (SP) に対して「SP用学生対応マニュアル」を作成し、実習内容をわかりやすく解説できるようにした。
		2013年3月31日	科目「人と文化Ⅳ 人間の行動と心理」で実施したワークショップの実施マニュアルを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2012年3月	日本薬学会第131回年会 (北海道) 2012/3において「大学周辺コミュニティの特性を活かしたSP養成プログラムの開発と実践」について発表した。
		2013年3月	日本薬学会第132回年会 (横浜) 2013/3において「『ヒューマニズムについて学ぶ: 生と死』における4年間の学びの実感と自己効力感の関連性」について発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年3月	本学のFD講師としてポートフォリオ作成について他大学や他学部の実践例を紹介し、薬学分野の大学院教育での応用可能性について概説した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 子ども白書2010「子どもの視線からのまちづくりに向けて」	共著	2010年8月	日本子どもを守る会編、32-33、草土文化、東京
(論文) まちでの遊びが子どもの生活リズムや心身健康状態に及ぼす影響に関する研究	共著	2009年8月	学校保健研究 51(3):183-192
(論文) 四世代遊び場マップができるまでー 2005～2008年まで4年間の遊びとまち研究会の軌跡ー	共著	2009年9月	「住まい・まち学習」10:79-82
(論文) 小中学生の地域活動への参加体験が心身健康度やコミュニティ・エンパワメント意識に与える影響	単著	2013年4月	こども環境学研究9(1):53-67
(論文) Effects of Participation in Community Activities on Self-Efficacy of Japanese Junior High School Students	共著	2014年	in press (Global Journal of Community Psychology Practice Volume 5, Issue 1)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Child-Friendly Cities Movement in Asia-Pacific アジア・パシフィック地域における「子どもにやさしい都市」の広がり		2014年4月	こども環境学会2014年大会、京都
(演題名) The Movement of Child Friendly City in Indonesia インドネシアにおける「子どもにやさしい都市 (まち)」のムーブメント (発表賞受賞)		2014年4月	こども環境学会2014年大会、京都

(演題名)被災地とつながり、共に学び、支え合う：子どもが真ん中	2014年6月	コミュニティ心理学会第17回大会、自主シンポジウム「東日本大震災の被災者支援：子ども支援のその後の展開（パート2）、京都
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2012年4月～2014年5月現在	公益社団法人こども環境学会理事	
2010年4月～2014年5月現在	NPO法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会監事	
2013年12月～2014年5月現在	町田市子ども・子育て会議委員（副議長）	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬理学	職名 教授	氏名 渡邊 泰男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年9月30日	科目「薬の効き方Ⅰ」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.2)	
	2009年3月31日	科目「薬の作用」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.4)	
	2009年9月30日	科目「薬の効き方Ⅰ」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.4)	
	2010年3月31日	科目「薬の作用」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.3)	
	2010年9月30日	科目「薬の効き方Ⅰ」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.6)	
	2011年3月31日	科目「薬の作用」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.4)	
	2011年9月30日	科目「薬の効き方Ⅰ」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.5)	
	2011年9月30日	科目「英語Ⅲ-1」において、視聴覚資料を多用した実践的講義を行った。(授業評価：4.4)	
	2012年3月31日	科目「薬の作用」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.5)	
	2012年9月30日	科目「薬の効き方Ⅰ」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.4)	
	2013年3月31日	科目「薬の作用」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.5)	
	2013年9月30日	科目「薬の効き方Ⅰ」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.5)	
	2014年3月31日	科目「薬の作用」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.3)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2009年7月17日	科目「薬の効き方Ⅰ」に関する参考書「薬学CBTこあかり」を刊行した。	
	2013年3月20日	科目「薬の作用・薬の効き方Ⅰ」に関する教科書「疾病の回復を促進する薬」を刊行した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Nitric oxide-mediated modulation of Calcium/Calmodulin-dependent protein kinase II	共著	2008年7月	Biochem. J. 412, 223-231
(論文) Modification of endothelial nitric oxide synthase through AMPK after experimental subarachnoid hemorrhage.	共著	2009年7月	J Neurotrauma. 26, 1157-65

(論文) Activation of PI3 kinase/Akt signaling in chronic subdural hematoma outer membranes.	共著	2011年7月	J Neurotrauma. 28 , 1127-31
(論文) Real-time monitoring of liver damage during experimental ischaemia-reperfusion using a nitric oxide sensor.	共著	2012年8月	Br J Surg. 99 , 1120-8
(論文) Redox signal regulation via nNOS phosphorylation at Ser847 in PC12 cells and rat cerebellar granule neurons.	共著	2014年4月	Biochem J. 459 , 251-63
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) NOによる細胞内Ca ²⁺ 流入増強メカニズムの解明		2014年5月	第14回日本NO学会学術集会
(演題名) 硫化水素産生酵素cystathionine γ -lyase (CSE)の阻害剤探索		2014年6月	日本ケミカルバイオロジー学会 第9回年会
(演題名) Reversible Inactivation of Ca ²⁺ /calmodulin-dependent Protein Kinase IV by Reactive Cysteine Persulfides Generated from Cystathionine- γ -lyase and Cystine		2014年6月	The 8th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide
(演題名) Redox Signal Regulation via nNOS Phosphorylation at Ser847 in PC12 cells and Rat Cerebellar Granule Neurons		2014年6月	The 8th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide
(演題名) ニトロソ化修飾を介したシスタチオンin γ -リアーゼの活性制御		2014年7月	第130回日本薬理学会関東部会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2005年4月～	現在	公益社団法人日本薬理学会評議員	
2006年4月～	現在	一般社団法人日本生理学会評議員	
2008年4月～	現在	日本NO学会理事	
2012年4月～	現在	日本神経化学学会評議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	昭和薬科大学	研究室等の名	薬剤学	職名	教授	氏名	渡邊 善照
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				2010年3月31日		科目「薬物送達法」において、視聴覚資料を用いた講義を行った。(授業評価：4.0)	
				2010年9月30日		科目「医薬品の開発と生産」において、視聴覚資料を用いた講義を行った。(授業評価：3.8)	
				2011年3月31日		科目「個別化治療の基礎」において、実践的内容を重視した講義を行った。(授業評価：3.8)	
				2011年3月31日		科目「医薬品の安全性」において、自主的な学習を進めた。(授業評価：3.8)	
				2012年9月30日		科目「薬物送達法」において、学外講師を招き、薬害教育を充実した。(授業評価：4.0)	
				2013年9月30日		科目「薬物送達法」において、学外講師を招き、薬害教育を充実した。(授業評価：4.0)	
2 作成した教科書、教材、参考書				2009年4月10日		科目「個別化治療の基礎」に関する教科書「臨床への薬物動態学」を刊行した。	
				2012年4月10日		科目「薬物送達法」に関する教科書として「標準薬剤学改訂第3版」を刊行した。	
				2014年4月5日		卒業研究教育の参考書として「薬剤学実験法」を編纂、刊行した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				2009年7月4日		日本薬剤学会第34回製剤セミナー・フォーラムにおいて、「社会のニーズと薬剤学教育担当者の役割」を講演した。	
				2011年5月31日		日本薬剤学会第26年会薬学教育シンポジウムにおいて、「薬学部教育に続く新大学院での教育と研究」を講演した。	
				2013年5月25日		日本薬剤学会第28年会薬学教育シンポジウムにおいて、「薬学教育の国際化、国際交流の活性化に向けて」を講演した。	
				2014年5月26日		日本薬剤学会第29年会薬学教育シンポジウムにおいて、「薬剤学教育における国際性の充実に向けて」を発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)				2011年5月7日		本学の大学院FDワークショップを大学院研究科長として企画、タスクフォースとして運営した。	
				2012年3月17日		本学の大学院FDワークショップを大学院研究科長として企画、タスクフォースとして運営した。	
				2012年12月22日		日本大学薬学部から招かれて、同薬学部FDワークショップで教育講演を行った。	
				2013年3月9日		本学の大学院FDワークショップを大学院研究科長として企画、タスクフォースとして運営した。	
				2014年3月15日		本学の大学院FDワークショップを大学院研究科長として企画、タスクフォースとして運営した。	
Ⅱ 研究活動							

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Domain mapping of a claudin-4 modulator, the C-terminal region of C-terminal fragment of Clostridium perfringens enterotoxin, by site-directed mutagenesis	共著	2008年8月	Biochem. Pharmacol., 75 , 1639-1648.
（論文）Novel chronotherapeutic rectal aminophylline delivery system for therapy of asthma	共著	2009年6月	Int. J. Pharmaceut., 379 , 119-124.
（論文）Effects of application method o skin penetration of carboxyfluorescein incorporated in liposomes	共著	2010年3月	Chem. Pharm. Bull., 58 , 429-431.
（論文）Effects of application method o skin penetration of carboxyfluorescein incorporated in liposomes	共著	2011年4月	Int. J. Pharmaceut., 413 , 119-125.
（論文）Percolation analysis in electrical conductivity of Madin-Darby canine kidney and Caco-2 cells by permeation-enhancing agents	共著	2013年3月	Biol. Pharm. Bull., 36 , 384-389.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Sec61 β regulates barrier functions of tight junction via the expression of claudin-4 in epithelial cells		2014年4月	5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress
（演題名）各層除去皮膚におけるウフェナマートと基剤の皮膚移行量の関係		2014年5月	日本薬剤学会第29年会
（演題名）疎水化ヒドロキシプロピルメチルセルロースを用いたo/w型乳剤の処方検討		2014年5月	日本薬剤学会第29年会
（演題名）イメージング用アデノウイルスベクターの開発		2014年7月	第30回日本DDS学会
（演題名）Effect of claudin-4 expression on the barrier function of tight junction in epithelial cells treated with TNF- α		2014年8月	74th FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2008年4月～2014年5月 現在	日本薬剤学会評議員		
2008年4月～2014年5月 現在	日本薬物動態学会評議員		
2008年4月～2014年5月 現在	日本DDS学会評議員		
2008年4月～2014年5月 現在	日本薬理学会学術評議員		
2008年4月～2014年5月 現在	ジェネリック医薬品協議会理事		
2008年4月～2010年3月	横浜市立大学医学部附属病院臨床試験審査委員会委員		
2009年4月～2011年3月	厚生労働省医道審議会・薬剤師分科会、国家試験出題基準改訂部会委員		
2010年4月～2014年5月 現在	日中医学協会共同研究等助成事業委員会委員		
2010年5月～2014年5月 現在	日本薬剤学会監事		
2013年12月～2014年5月 現在	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名	学修支援室	職名 准教授	氏名 井上 能博
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年3月31日	科目「化学療法学」において、理解の一助となるような身の回りの感染症に関する話題を適宜提供する講義を行った。(授業評価：4.27)		
	2012年9月30日	科目「微生物学」において、板書を書くペースを調節した講義を行った。(授業評価：4.4)		
	2013年3月31日	科目「感染制御学」において、絵を用いた解説を多く取り入れる講義を行った。(授業評価：4.54)		
	2013年9月30日	科目「微生物学」において、興味を引き出し、記憶の定着を促すため、ニュースや最新の研究成果などを紹介した。(授業評価：4.5)		
	2014年3月31日	科目「感染制御学」において、板書だけでなく、動画や図などを取り入れ、より理解しやすいような工夫をした。(授業評価：4.5)		
2 作成した教科書、教材、参考書	2009年6月1日	科目「微生物の取り扱い」の実習書「微生物学実習書」を作成した。		
	2010年5月27日	科目「微生物の取り扱い」の実習書「微生物学実習書」を作成した。		
	2011年5月24日	科目「微生物の取り扱い」の実習書「微生物学実習書」を作成した。		
	2011年2月5日	科目「微生物学」および「感染制御学」に関する教科書「新しい微生物学」(廣川書店)を刊行した。		
	2012年9月3日	科目「微生物の取り扱い」の実習書「微生物学実習書」を作成した。		
	2013年4月7日	リメディアル教育として行う物理補講のための「学習手引書」を作成した。		
	2013年8月29日	科目「微生物の取り扱い」の実習書「微生物学実習書」を作成した。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年4月～6月	高等学校で物理学を未履修の学生対象にリメディアル教育の一環として補講を行った。		
	2013年10月10日	学修支援部門の充実を図るため東京薬科大学へ視察と意見交換を行った。		
	2014年4月～6月	学業不振学生(1, 5, 6年生および卒業延期生)対象の補講を行った。		
	2014年5月～6月	高等学校で物理学を未履修の学生対象にリメディアル教育の一環として補講を行った。		
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Light irradiation is a factor in the bactericidal activity of silver-loaded zeolite		共著	2008年	Chem. Pharm. Bull., 56 , 692-694.
Antibacterial activities against <i>Staphylococcus aureus</i> of terpene alcohols with aliphatic carbon chains		共著	2010年	J. Essent. Oil Res., 22 , 263-269

Effect of farnesol on mevalonate pathway of <i>Staphylococcus aureus</i>	共著	2011年	J. Antibiot., 64 , 547-549.
Effect of silver-loaded zeolite on the susceptibility of <i>Escherichia coli</i> against antibiotics	共著	2012年	J. Biomater. Nanobiotech., 3 , 114-117.
Electrochemical analysis of the redox state of silver contained in antibacterial material	共著	2012年	J. Biomater. Nanobiotech., 3 , 136-139.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
未定			
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
		特になし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 臨床薬学教育	職名 准教授	氏名 小野寺 敏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			特記なし
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年9月1日	科目「薬物治療」に関する参考書「疾病の成り立ちと薬物療法」を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特記なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 疾病の成り立ちと薬物療法	共著	2013年9月	医学評論社
(著書) シマ桑	共著	2014年5月	メディアパル
(論文) Interference of silibinin with IGF-1R signalling pathways protects human epidermoid carcinoma A431 cells from UVB-induced apoptosis.	共著	2013年2月	Biochemical and Biophysical Research Communication . Vol1432, No2
(論文) Pseudolaric Acid B-Induced Autophagy Contributes to Senescence via Enhancement of ROS Generation and Mitochondrial Dysfunction in Murine Fibrosarcoma L929 Cells.	共著	2013年3月	J Pharmacol Sci. Vol121, No3
(論文) Silibinin protects murine fibroblast L929 cells from UVB-induced apoptosis through the simultaneous inhibition of ATM-p53 pathway and autophagy.	共著	2013年	FEBS J, Vol 280
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) マウス線維肉腫細胞L929へのTNF α 細胞毒性作用に対しI型コラーゲンとゼラチンは異なる影響を示す		2014年6月	日本結合組織学会年会
(演題名) 沖縄県友人最南端「波照間島」に自生するシマ桑の食品機能調査		2014年7月	日本保健医療学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2012年4月～2014年5月現在	日本医療福祉学会会長		
2006年10月～2014年5月現在	日本マイナスイオン応用学会副会長		

1996年2月～2013年4月	日本地域薬局薬学会会長（現在理事）
2003年10月～2014年5月現在	日本未病システム学会評議員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬品分析化学	職名 准教授	氏名 小林 茂樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年3月30日	科目「機器分析学」において、視聴覚資料や演習問題スピン2012を作成し講義に活用。(授業評価: 3.6 平均)
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年9月1日	科目「分析化学」に関する教科書「分析化学I」を刊行した(朝倉書店)。
		2008年9月1日	科目「機器分析学」に関する教科書「分析化学II」を刊行した(朝倉書店)。
		2010年2月1日	科目「分析化学」に関する教科書「分析化学I」(基礎化学から医療薬学へ)を刊行した(廣川書店)。
		2010年2月1日	科目「機器分析学」に関する教科書「分析化学II」(機器分析の医療薬学への応用)を刊行した(廣川書店)。
		2014年2月1日	科目「分析化学実習」の実習書「容量分析学実習要項」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Development of New Double-Stranded Phenylalanyl Chelators Using h- χ Diagrams and Binding Constants for Chelators and Lanthanide Ions.	共著	2010年5月	Chem. Pharm. Bull., 58 , 620-627.
(論文) Potent 2,2-Diphenyl-1-picrylhydrazyl Radical-Scavenging Activity of Novel Antioxidants, Double-Stranded Tyrosine Residues Conjugating Pyrocatechol	共著	2010年11月	Chem. Pharm. Bull., 58 , 1442-1446.
(論文) Key Role of Chemical Hardness to Compare 2,2-Diphenyl-1-picrylhydrazyl Radical Scavenging Power of Flavone and Flavonol O-Glycoside and C-Glycoside Derivatives	共著	2012年1月	Chem. Pharm. Bull., 60 , 37-44
(論文) Superoxide Scavenging Effects of Some Novel Bis-Ligands and Their Solvated Metal Complexes Prepared by the Reaction of Ligands with Aluminum, Copper and Lanthanum Ions	共著	2013年6月	Molecules, 18 , 6128-6141.
(論文) Effects of ionic radius of redox-inactive bio-related metal ions on the radical-scavenging activity of flavonoids evaluated using photometric titration	共著	2013年8月	Chem. Commun., 49 , 9842-9844
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
活性酸素種のスカベンジングに対する新規Mgマテリアルの水素分子生成機構		2014年5月	日本コンピュータ化学会 2014春季年会
Antioxidant Effects of Hydrogen and Deuterium Produced from Metal Systems		2014年6月	第24回 金属の関与する生体関連反応シンポジウム

Antioxidant Activities and Mechanism of Production of Hydrogen and Deuterium Molecules Produced from Magnesium-Organic Acid Systems	2014年6月	第24回 金属の関与する生体関連反応シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 応用数学 繁田	職名 准教授	氏名 繁田 岳美	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年4月	科目「情報科学実習・演習」の資料を作成することにより、効果的に実習・演習を行った。(授業評価:3.7(2013年度)、3.9(2014年度))		
	2012年6月	科目「微分積分学」の教科書の問題に対する詳細な解答・解説集を作成することにより、学生の自習を効果的に補助した。(授業評価:4.2(2012年度)、4.2(2013年度))		
	2012年6月	科目「医療統計学」の教科書の問題に対する詳細な解答・解説集を作成することにより、学生の自習を効果的に補助した。(授業評価:3.9(2012年度)、3.9(2013年度))		
	2012年9月	科目「微分方程式・線形代数」の教科書の問題に対する詳細な解答・解説集をを作成することにより、学生の自習を効果的に補助した。(授業評価:4.1(2013年度))		
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年4月	科目「情報科学実習・演習」の資料「コンピュータとインターネットのしくみ」、「情報倫理、情報セキュリティ、情報検索」、「ウェブページの作成」を作成した。		
	2012年6月	科目「微分積分学」の教科書の問題に対する詳細な解答・解説集を作成した。		
	2012年6月	科目「医療統計学」の教科書の問題に対する詳細な解答・解説集を作成した。		
	2012年9月	科目「微分方程式・線形代数」の教科書の問題に対する詳細な解答・解説集を作成した。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)				
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	
(論文) Method of fundamental solutions with optimal regularization techniques for the Cauchy problem of the Laplace equation with singular points	共著	2009年4月	J. of Comp. Phys., 228 (6), 1903-1915	
(論文) Mathematical aspects and numerical computations of an inverse boundary value identification using the adjoint method	単著	2010年2月	Far East J. of App. Math., 39 (2), 81-93	
(論文) Regularized solutions with a singular point for the inverse biharmonic boundary value problem by the method of fundamental solutions	共著	2011年7月	Eng. Ana. with Boun. Elem., 35 (7), 883-894	
(論文) Mathematical and numerical studies on meshless methods for exterior unbounded domain problems	共著	2011年7月	J. of Comp. Phys., 230 (17), 6900-6915	
(論文) Adaptive multilayer method of undamental solutions using a weighted greedy QR decomposition for the Laplace equation	共著	2012年8月	J. of Comp. Phys., 231 (21), 7118-7132	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
Poisson方程式における重複領域分割法の最適なパラメータに関する数学的理論		2014年9月	日本応用数理学会	
Mathematical theory on the optimal parameter for an overlapping domain decomposition method in the Poisson equation		2014年10月	The 5th Boundary Element Method Conference	

Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2014年6月～	現在	学校法人明法学院 明法中学・高等学校 評議員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 天然物化学	職名 准教授	氏名 中根 孝久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年4月1日	科目「生薬学1」において、薬局方の生薬関連分野の条項作成を例示し、講義を行った。(授業評価: 3.5) 科目「機器分析」において、演習問題が充実している教科書を用い、演習を講義に導入した。(授業評価: 3.3)
		2009年4月1日	科目「生薬学1」において、生薬が抱える問題点を動画を用いて講義を行った。(授業評価: 3.5) 科目「機器分析」において、演習問題を作成し、講義を行った。(授業評価: 3.6)
		2010年4月1日	科目「生薬学1」において、ハーブやサプリメントなどの取扱い、食薬区分などを例示し、講義を行った。(授業評価: 3.6) 科目「機器分析」において、演習問題の解説を多く取り入れ講義を行った。(授業評価: 3.7)
		2011年4月1日	科目「化学英語」において、生薬・天然物化学関連の構造決定に関する論文を教材とし、講義を行った。(授業評価: 3.6) 科目「生薬学1」において、薬局方の改正に伴い、改正点を整理して講義を行った。(授業評価: 3.8) 科目「機器分析」において、演習問題がより充実している教科書を選定し、講義のなかで演習時間を設け、理解度の向上に努めた。(授業評価: 3.5)
		2012年4月1日	科目「生薬学1」において、ここの生薬と主要成分の構造式及び確認試験法の関連が理解し易いように関連付けを行いながら講義を行った。(授業評価: 3.9) 科目「機器分析」において、独自に得た化合物のチャートを例示して、構造解析法の解説を行った。(授業評価: 3.5)
		2013年4月1日	科目「生薬学1」において、薬局方と国際調和など生薬を取り巻く環境を考慮しながら講義を行った。(授業評価: 3.6) 科目「薬局方概論」において、演習問題を配布し、解説して個々の理解度を高めるように指導した。(授業評価: 3.7)
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年4月1日	科目「生薬学1」の補助教材として「生薬学1」講義プリントを作成・更新した。科目「機器分析」の補助教材として「機器分析演習問題」を作成・更新した。科目「天然物化学実習」の実習書「天然物化学実習指針」を刊行した。
		2009年4月1日	科目「生薬学1」の補助教材として「生薬学1」講義プリントを作成・更新した。科目「機器分析」の補助教材として「機器分析演習問題」を作成・更新した。科目「天然物化学実習」の実習書「天然物化学実習指針」を刊行した。
		2010年4月1日	科目「生薬学1」の補助教材として「生薬学1」講義プリントを作成・更新した。科目「機器分析」の補助教材として「機器分析演習問題」を作成・更新した。科目「天然物化学実習」の実習書「天然物化学実習指針」を刊行した。
		2011年4月1日	科目「生薬学1」の補助教材として「生薬学1」講義プリントを作成・更新した。科目「機器分析」の補助教材として「機器分析演習問題」を作成・更新した。科目「天然物化学実習」の実習書「天然物化学実習指針」を刊行した。

	2012年4月1日	科目「生薬学1」の補助教材として「生薬学1」講義プリントを作成・更新した。科目「機器分析」の補助教材として「機器分析演習問題」を作成・更新した。科目「天然物化学実習」の実習書「天然物化学実習指針」を刊行した。	
	2013年4月1日	科目「生薬学1」の補助教材として「生薬学1」講義プリントを作成・更新した。科目「機器分析」の補助教材として「機器分析演習問題」を作成・更新した。科目「薬局方概論」の教材及び補助教材として「日本薬局方及び演習」を作成した。科目「天然物化学実習」の実習書「天然物化学実習指針」を刊行した。	
	2014年4月1日	科目「生薬学1」の補助教材として「生薬学」を作成・更新した。科目「薬局方概論」の教材及び補助教材として「日本薬局方及び演習」を作成・更新した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2009年3月26日	日本薬学会第129年会において、若手シンポジウム、生薬学の伝統と革新—将来増に求められるものとは？のなかで、シンポジストとして「6年生薬学教育における生薬学のあり方について考える」を講演した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）日本の有毒植物（フィールドベスト図鑑）	共著	2012年5月	学研
（論文）Water-Soluble Undenatured Type II Collagen Ameliorates Collagen-Induced Arthritis in Mice	共著	2011年3月	<i>J of Medicinal Food</i> , 16(11), 1039-1045 (2013)
（論文）Officinatrione: an unusual (17 <i>S</i>)-17,18-seco-lupane skeleton, and four novel lupane-type triterpenoids from the roots of <i>Taraxacum officinale</i>	共著	2012年12月	<i>Tetrahedron</i> , 69, 1583-1589 (2012)
（論文）The Identification of Vitamin E Homologues in Medicinal Plant Samples Using ESI(+)-LC-MS3	共著	2012年8月	<i>Journal of agricultural and food chemistry</i> , 60(38), 9581-9588 (2012)
（論文）Composite Constituent: Lactucenyl Acetate, a Novel Migrated Lupane Triterpenoid from <i>Lactuca indica</i> Revision of Structure of Tarolupenyl Acetate	共著	2013年2月	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 59(6), 767-769 (2011).
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）中国産 <i>Adiantum davidii</i> のトリテルペノイド		2014年9月	日本生薬学会
（演題名）中国広東省汎用生薬広東土槿皮の生薬学的研究		2014年9月	日本生薬学会
III 学会および社会における主な活動			
2008年4月～2014年5月現在	日本薬学会ファルマシア地区通信委員として、薬学会機関誌へ学内人事の掲載依頼などを行った。		
2008年4月～2014年5月現在	昭和薬科大学の地域貢献の一環として、年6回薬草教室を開催した。		
2008年4月～2014年5月現在	植物中毒に関する研究会委員として、厚労省HPなどを通じて植物中毒の周知、警鐘を行った。		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 薬剤師実務教育 の名 廣原	職名 准教授	氏名 廣原 正宜
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年9月8日	4年次「実務実習事前学習」において、バイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習を取り入れた。	
	2010年9月8日	4年次「実務実習事前学習」において、無菌製剤（抗がん剤の取り扱い）実習では、閉鎖系混合システムなど、最新の医療材料を取り入れ、学生が実際に体験できるように工夫した。	
	2014年4月8日	5年次「薬物治療特論Ⅱ」において、症例検討をPBL形式で行い、学生が自ら問題点を見つけ、解決(提案)できるように講義内容を検討、SGDでは学生の意欲が高まるように促した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年6月以降	科目「実務実習事前学習」の実習書「実務実習事前学習 実習テキスト（無菌製剤）」を年度あたり3回、毎年度作成している。	
	2013年2月28日	（参考書）症例検討入門 第2版 ー薬物治療に最適なプロセスとはー	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2009年12月以降	薬学共用試験（OSCE）、評価者直前講習会、評価者養成伝達講習会の企画・運営	
	2012年9月16日 2013年1月13日 2013年9月15日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(神奈川県)のタスクフォース	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Effects of Showa Pharmaceutical University toward pre-training for clinical pharmacy practice and its assessment	共著	2010年12月	Journal of Drug Interaction Research (Japan), 34(2), 27-33.
（論文）Report of the advanced practical training program of Showa Pharmaceutical University: questionnaire surveys on students and pharmacist instructors	共著	2012年3月	BULLETIN of Showa Pharmaceutical University, 46, 1-12.
（論文）Effects and problems of education from first clinical pharmacy training at hospital in the six-year system of pharmaceutical education: questionnaire on students and instructing pharmacists	共著	2012年4月	Journal of Drug Interaction Research (Japan), 35(3), 31-40.
（論文）授業改善の試み ー薬物治療特論Ⅱの場合ー	共著	2013年3月	昭和薬科大学紀要, 47, 10-20.
（論文）指導薬剤師を対象としたフィジカルアセスメントに関する意識調査	共著	2013年3月	昭和薬科大学紀要, 47, 21-32.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
保険薬局の構造設備に対する一考察 ー 抗がん剤注射薬の無菌調剤に向けて ー		2014年6月	医療薬学フォーラム2014

Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2013年4月～	現在	公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会 実務実習委員会委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬剤学	職名 准教授	氏名 藤井 まき子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年9月30日	科目「剤形をつくる」において、写真を多用したパワーポイントで医薬品製造への理解を深めた。(授業評価：4.2)	
	2012年9月30日	科目「製剤材料の性質」において、下級年次の復習を含む演習を多用した講義を行った。(授業評価：4.1)	
	2013年9月30日	科目「香粧品科学」において、ビデオ、簡単な皮膚機能評価、調査結果の発表などを取り入れた学生が積極的に取り組める講義を行った。(授業評価：4.5)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年2月5日	科目「製剤材料の性質」に関する参考書「物理薬剤学・製剤学 改訂第2版」の分担執筆を行った。	
	2012年4月10日	科目「製剤材料の性質」「剤形をつくる」に関する教科書「標準薬剤学 改訂第3版」の分担執筆を行った。	
	2014年4月1日	科目「製剤実習」の実習書「製剤実習要項」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年12月5日	ディプロマポリシーに関する本学のFDに参加し、発表資料を作成した。	
	2013年12月14日	本学の独自なカリキュラムについてのFDワークショップに参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
The preparation of a solid dispersion powder of indomethacin with crospovidone using a twin-screw extruder or kneader	共著	2009年	Int. J. Pharmaceut. 365 , 53-60
Effect of powder characteristics on oral tablet disintegration	共著	2009年	Int. J. Pharmaceut. 365 , 116-120
Study on penetration of titanium dioxide (TiO ₂) nanoparticles into intact and damaged skin in vitro	共著	2010年	J.Toxicol. Sci. 35 , 107-113
Evaluation of the physicochemical characteristics of crospovidone that influence solid dispersion preparation	共著	2011年	Int. J. Pharmaceut., 413 , 119-125
Oil-in-water emulsion lotion providing controlled release using 2-methacryloyloxyethyl phosphorylcholine n-butyl methacrylate copolymer as emulsifier	共著	2012年	Results in Pharma Sciences 2 , 16-22
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Effect of alcohol on skin permeation and metabolism of p-hydroxyl benzoic acid methyl ester		2014年4月	5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress
疎水化ヒドロキシプロピルメチルセルロースを用いたO/W型乳剤の処方検討		2014年5月	日本薬剤学会第29年会

角層除去皮膚におけるウフェナマートと基剤の皮膚移行量の関係	2014年5月	日本薬剤学会第29年会
異なる皮膚状態におけるウフェナマートの皮膚移行に与える基剤の影響	2014年5月	日本薬剤学会第29年会
グリチルレチン酸ステアリルの皮膚移行性にO/W型乳液の内油相が与える影響の人工膜を用いた検討	2014年6月	第39回日本香粧品学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2007年1月～2014年5月現在	厚生労働省 薬事・食品衛生審議臨時委員	
2007年4月～2014年5月 現在	日本香粧品学会 理事	
2010年2月～2014年2月	厚生労働省 医薬品添加物規格検討委員会委員	
2012年4月～2014年5月現在	日本薬剤学会投稿論文審査委員長	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 英語	職名 准教授	氏名 堀内 正子	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年9月30日	本学で初めて入学時のプレイスメントテストにより到達度別にクラス分けを行い、科目「薬学英語入門Ⅰ」の演習・講義を行った。(授業評価：4.1)	
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年3月25日	科目「薬学英語入門」に関する教科書「薬学英語2」を刊行した。	
		2011年2月2日	科目「薬学英語入門」に関する教科書「薬学英語入門」を刊行した。	
		2012年2月20日	科目「薬学英語入門」に関する教科書「薬学英語1(改定版)」を刊行した。	
		2013年2月10日	科目「薬学英語入門」に関する教科書「薬学英語2(改定版)」を刊行した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2008年9月7日	日本社会薬学会で「薬学モデル・コアカリキュラム『A(3)信頼関係の確立を目指して』の実践報告を行った。	
		2011年6月26日	JACET(大学英語教育学会)関東支部・第5回大会シンポジウムで「Can Do Statementsを用いた薬学英語開発」を発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2009年9月～2011年2月	日本薬学会編による初の薬学英語テキスト「薬学英語入門」の編集委員責任者を務めた。	
		2012年4月21日	学内の1年生ワークショップを企画・運営した。	
		2013年10月13日	日本社会薬学会第32年会で、シンポジウム1「薬学生と薬剤師の未来を拓く英語力」を企画・運営した。	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) オスカー・ワイルドの世界		共著	2013年5月	開文社出版
(論文) 薬学部の制度改革に伴うESP教材開発と実践		共著	2009年12月	Annual Report of JACET-SIG on ESP, 11, 77-85.
(論文) 薬学準備教育ガイドラインに沿った英語教材開発		共著	2010年12月	Annual Report of JACET-SIG on ESP, 12, 41-49.
(論文) Can Do Statements を用いた薬学英語教材開発		共著	2012年3月	JACET-KANTO Journal, 8, 37-47.
(論文) English Education at School of Pharmacy in Japan: Meeting Curricular Needs Through Authentic ESP Materials		共著	2013年12月	The Asian EFL Journal Special Edition, 15-4, 355-364.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名

(演題名) 日本薬学英语研究会による薬学教育ガイドライン準拠 教材開発プロジェクト	2014年7月	第17回日本医学英語教育学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2010年4月～2012年3月	大学英語教育学会 ESP関東SIG 副代表	
2012年4月～現在	大学英語教育学会 ESP関東SIG アドバイザー	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 臨床薬学教育	職名 准教授	氏名 増田 豊
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年9月19日 2013年9月26日	科目「環境科学」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.1) 科目「社会と健康」において、厚労省HpからWeb上の情報を積極的に用い講義に反映させた。(授業評価: 4.0)
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年4月1日 2012年4月1日	科目「環境科学実習」の実習書「環境科学実習」を作成した。 科目「環境科学実習」の実習書「環境科学実習」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) A scaffold protein, AHNAK1, is required for calcium signaling during T cell activation.	共著	2008年1月	Immunity, 28 (1), 64 ~ 74.
(論文) Expression of thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor (TAFI) is up-regulated by increase in intracellular cyclic AMP levels in cultured HepG2 cells.	共著	2009年12月	Thrombosis and Haemostasis, 102 (6), 1204 ~ 1211.
(論文) Glucagon regulates intracellular distribution of adipose differentiation-related protein during triacylglycerol accumulation in the liver.	共著	2010年9月	Journal of Lipid Research, 51 (9), 2571 ~ 2580.
(論文) Peroxisome proliferator-activated receptor- α agonists repress expression of thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor by decreasing transcript stability.	共著	2012年7月	Thrombosis and Haemostasis, 108 (1), 74 ~ 85.
(論文) Nobilletin, a polymethoxyflavone in citrus fruits, reduces TAFI expression in HepG2 cells through transcriptional inhibition.	共著	2013年6月	Thrombosis and Haemostasis, 109 (6), 1060 ~ 1069.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2009年4月～2013年3月	日本生化学会「生化学」誌企画委員会委員		
2007年4月～2009年10月	日本生化学会生化学教育委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬品化学	職名 准教授	氏名 山崎 龍
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年11月15日	科目「基礎有機化学Ⅱ」(Ⅰ年次後期必修)において、中間試験を実施し、さらにその中にアンケートとして授業の改善点を学生にあげてもらい、実際に対策した。 本学着任初年度ということで特に授業の進行速度や量について早い段階で学生のレベルを把握する必要があった。実際にアンケートとテスト結果をもとに進行速度や一部プリント利用により板書を減らすなどの工夫を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis of monocyclic nine-membered compounds by the [4+3+2] cycloaddition-bond cleavage strategy	共著	2013年6月	Tetrahedron Lett., 54 , 3507-3509.
(論文) Synthesis of [2]Rotaxanes by the Copper-Mediated Threading Reactions of Aryl Iodides with Alkynes	共著	2013年6月	Org. Lett., 15 , 2684-2687.
(論文) Synthesis and Polymerization of Styrene Monomer Carrying Isothiocyanate Moiety and Its Copolymerization with HEMA Based on Chemo-Selectivity to Nucleophiles	共著	2013年10月	J. Polym. Sci. Part A., 51 , 5215-5220.
(論文) Synthesis of rotacatenanes by the combination of Cu-mediated threading reaction and the template method: the dual role of one ligand	共著	2014年1月	Chem. Commun., 50 , 204-206.
(論文) Acid-mediated Ring-Expansion Reaction of N-Aryl-2-vinylazetidines: Synthesis and Unanticipated Reactivity of Tetrahydrobenzazocines	共著	2014年4月	J. Org. Chem., 79 , 4367-4377.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) N-ピリジル型およびN-トロポニル型芳香族アミドの立体構造特性と構造変換		2014年9月	複素環化学討論会

Ⅲ 学会および社会における主な活動		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬剤師実務教育渡部	職名 准教授	氏名 渡部 一宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年9月30日	科目「臨床試験の評価法」(6年次前期)において、臨床研究デザイン・解析に関する講義に加え、複数回に渡り、演習(TBL、SGD)を行った。(授業評価: 4.47)
		2013年9月30日	科目「薬物治療特論Ⅱ」(5年次前期)において、症例検討PBLのSGD、を積極的に行い、学生の自主的な学習を進めた。(授業評価: 日本薬学会 第133 年会(横浜)に一般演題発表)
		2014年3月31日	科目「実務実習事前学習Ⅱ」(4年次後期)において、ローテーション実習「糖尿病患者教育」において、インスリン自己注射手技や自己血糖測定器を用いた血糖値の測定などの実践的な実技演習・実習行い、学生の糖尿病患者教育に関する学習を進めた。(日本薬学会 第134年会(熊本)に一般演題発表)
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年9月1日	科目「薬物治療特論Ⅱ」に関する教科書「症例検討入門第2版(京都廣川書店)」を刊行した。
		2009年4月1日～	科目「実務実習事前学習」の大学における実習書を作成した。(毎年改定)
		2013年1月1日～	科目「臨床試験の評価法」(6年次前期)の参考書として「月刊薬事「時めき臨床研究」」を連載している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2011年2月23日	薬学教育協議会フォーラム2011: 昭和薬科大学における初年度実務実習の実施状況
		2011年3月31日	日本薬学会第131年会(静岡): 長期実務実習を実施した学生及び指導薬剤師の意識調査
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年1月13、14日	神奈川県薬剤師会 実務実習指導薬剤師ワークショップ運営
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Pharmaceutical Evaluation of Metronidazole External Hospital Preparation for Cancerous Malodor	共著	2008年5月	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci., 34(5), 433-440
進行性乳癌の癌性皮膚潰瘍に対する新規メトロニダゾールゲルの有用性評価	共著	2008年2月	乳癌の臨床、23(2)、105-109
Preparation and Evaluation of Stability and Drug Release of Lidocaine containing Metronidazole Ointments Prepared in a Hospital for Cancerous Malodor	共著	2010年3月	Journal of Drug Interaction Research, 34(2), 93-98
Status of provision of drug information to hypertensive patients at community-based pharmacies	共著	2011年12月	General Medicine, 12(2), 75-81
Current Status of Awareness and Implementation of the "Yakuzai-Kanri Summary" in Community Pharmacies Prescribing Drugs under the Health Insurance System in Japan	共著	2013年6月	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci., 39(6), 433-440
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名

乳腺専門診療所におけるnon-Luminal 乳癌に対する術前化学療法の効果	2014年7月	第22回 日本乳癌学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2008年4月～ 現在	一般社団法人 日本医療薬学会 認定指導薬剤師	
2008年4月～2014年3月	一般社団法人 日本病院薬剤師会 学術委員会 委員（第4小委員会）	
2013年4月～ 現在	一般社団法人 薬学教育協議会 関東地区調整機構 大学委員	
2014年5月～	一般社団法人 日本乳癌学会 評議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 衛生化学	職名 講師	氏名 阿南 弥寿美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年9月30日	科目「栄養と健康」において、要点をまとめた資料と教科書を併用し、学習を進めた。(授業評価：3.7)	
	2012年3月31日	科目「栄養と健康」において、要点をまとめた資料と教科書を併用し、効果的な学習を進めた。(授業評価：3.8)	
	2013年3月31日	科目「栄養と健康」において、「衛生化学実習」の内容と関連させながら講義を進めた。(授業評価：3.96)	
	2013年9月30日	科目「化学物質の毒性」において、実例を多く挙げるなど学生の興味を引くよう工夫した。(授業評価：3.85)	
	2014年3月31日	科目「栄養と健康」において、関連する国家試験問題の解説などを取り入れた。(授業評価：4.2)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年9月1日	科目「衛生化学実習」の実習書「衛生化学実習実習書」を作成した。	
	2011年9月1日	科目「衛生化学実習」の実習書「衛生化学実習実習書」を作成した。	
	2012年9月1日	科目「衛生化学実習」の実習書「衛生化学実習実習書」を作成した。	
	2013年9月1日	科目「衛生化学実習」の実習書「衛生化学実習実習書」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Comparison of selenoneine found in marine organisms with selenite in the interaction with mercury compounds in vitro.	共著 (Y. Anan et al.)	2011年12月	J. Toxicol. Sci. 36, 725-731.
(論文) Distribution and metabolism of selenite and selenomethionine in the Japanese quail.	共著 (Y. Anan et al.)	2012年5月	Metallomics 4, 457-462.
(論文) Comparison in accumulation of lanthanide elements among three Brassicaceae plant sprouts.	共著 (Y. Anan et al.)	2012年7月	Bull. Environ. Contam. Toxicol. 89, 133-137
(論文) Chromatographic behavior of selenoproteins in rat serum detected by inductively coupled plasma mass spectrometry.	共著 (Y. Anan et al.)	2013年8月	Anal Sci, 29, 787-792.
(論文) Speciation and identification of tellurium-containing metabolites in garlic, Allium sativum.	共著 (Y. Anan et al.)	2013年9月	Metallomics, 5, 1215-1224.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Speciation of selenium and mercury in the liver of Japanese quails ingesting sodium selenite and mercury chloride. (演者)		2014年9月	2014 BNASS/TraceSpec Tandem Conference
水銀とセレノシアン酸または亜セレン酸を投与したラットにおける水銀とセレンの体内分布 (共同演者)		2014年9月	フォーラム2014：衛生薬学・環境トキシコロジー
培養細胞におけるセレン化合物による無機水銀の毒性軽減作用の解析 (共同演者)		2014年9月	フォーラム2014：衛生薬学・環境トキシコロジー

ラットにおける無機及び有機テルル化合物の体内分布の比較（共同演者）		2014年9月	フォーラム2014：衛生薬学・環境トキシコロジー
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2011年4月～2014年3月		ファルマシア、トピックス小委員	
2014年4月～ 現在		J. Toxicol. Sci誌、Editorial board	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の 名 学修支援室	職名 講師	氏名 池野 聡一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年10月－11月	実習教育（科目「生化学実習」）を全12回実施した。判りやすい図や写真を多用し、毎回24～30名の学生に対して酵素の反応速度論を解説した。実習中は学生に質問をしながら巡回すると共に、学生から質問にはその場で平易に解説するように心掛けた。
		2009年4月－5月	実習教育（科目「情報科学実習」）を全4回実施した。本実習では、統計処理ソフト（エクセル等）を用いたデータ処理方法を指導した。パソコンの基本的な操作方法から対象ソフトの使用法まで、平易な表現で丁寧に解説するように心掛けた。
		2009年10月－11月	実習教育（科目「生化学実習」）を全12回実施した。判りやすい図や写真を多用し、毎回24～30名の学生に対して酵素の反応速度論を解説した。実習中は学生に質問をしながら巡回すると共に、学生から質問にはその場で平易に解説するように心掛けた。
		2010年4月－5月	実習教育（科目「情報科学実習」）を全6回実施した。本実習では、統計処理ソフト（エクセル等）を用いたデータ処理方法を指導した。パソコンの基本的な操作方法から対象ソフトの使用法まで、平易な表現で丁寧に解説するように心掛けた。
		2010年10月－11月	実習教育（科目「生化学実習」）を全12回実施した。判りやすい図や写真を多用し、毎回24～30名の学生に対して酵素の反応速度論を解説した。実習中は学生に質問をしながら巡回すると共に、学生から質問にはその場で平易に解説するように心掛けた。
		2011年5月－6月	実習教育（科目「生化学実習」）を全12回実施した。判りやすい図や写真を多用し、毎回24～30名の学生に対して酵素の反応速度論を解説した。実習中は学生に質問をしながら巡回すると共に、学生から質問にはその場で平易に解説するように心掛けた。
		2012年5月－6月	実習教育（科目「生化学実習」）を全12回実施した。判りやすい図や写真を多用し、毎回24～30名の学生に対して酵素の反応速度論を解説した。実習中は学生に質問をしながら巡回すると共に、学生から質問にはその場で平易に解説するように心掛けた。
		2012年6月18日	6年次生対し、「生物系特論」の講義を実施した。見やすい図表を多用しながら、代表的なシグナル伝達経路について解説した。さらに、自身の研究対象であるTGF- β シグナル伝達経路を例に、本経路とがん化との関連性を最新の研究成果を交えながら解説した。
		2013年5月－6月	実習教育（科目「生化学実習」）を全12回実施した。判りやすい図や写真を多用し、毎回24～30名の学生に対して酵素の反応速度論を解説した。実習中は学生に質問をしながら巡回すると共に、学生から質問にはその場で平易に解説するように心掛けた。
		2014年4月9日	5年次基礎学力アップ補講（生物：90分×2）を実施。国家試験科目「物理・化学・生物」の生物分野の補講を行った。単元を細かく設定し、各単元の問題を解かせた直後に、要点を解説する事で、記憶への定着率を高めるよう工夫した。また、一つの単元に掛ける時間を30分（テスト10分、解説20分）と短くし、飽きさせないように心掛けた。

	2014年4月18日	5年次基礎学力アップ補講（生物：90分×1）を実施。国家試験科目「物理・化学・生物」の生物分野の補講を行った。単元を細かく設定し、各単元の問題を解かせた直後に、要点を解説する事で、記憶への定着率を高めるよう工夫した。また、一つの単元に掛ける時間を30分（テスト10分、解説20分）と短くし、飽きさせないように心掛けた。	
	2014年4月23日	5年次基礎学力アップ補講（生物：90分×2）を実施。国家試験科目「物理・化学・生物」の生物分野の補講を行った。単元を細かく設定し、各単元の問題を解かせた直後に、要点を解説する事で、記憶への定着率を高めるよう工夫した。また、一つの単元に掛ける時間を30分（テスト10分、解説20分）と短くし、飽きさせないように心掛けた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年～2013年	「生化学実習」に使用した実習書の改訂（担当した「酵素の阻害剤に関する実験」項目）を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Identification of amino acids in the pore region of Kv1.2 potassium channel that regulate its glycosylation and cell surface expression.	共著	2010年2月	J. Neurochem., 112(4), 913-923.
（論文）Effect of paclitaxel on transient receptor potential vanilloid 1 in rat dorsal root ganglion.	共著	2013年6月	Pain 154(6), 882-889.
（論文）C18 ORF1, a novel negative regulator of transforming growth factor-β signaling.	共著	2014年3月	J. Biol. Chem., 289(18), 12680-12692.
（論文）TGF-β signaling cooperates with AT motif-binding factor-1 for repression of the α-fetoprotein promoter.	共著	2014年5月1日現在	Journal of Signal Transduction, in press.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）PDZK1IP1によるTGF-β シグナル抑制機構		2014年4月3日	ハイテクリサーチ報告会（昭和薬科大学）
（演題名）Elucidation of the inhibitory mechanism of PDZK1IP1 against TGF-b/Smad signaling.		2014年5月8日	TGF-β Meeting 2014. (LUMC, The Netherlands)
Ⅲ 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 医薬分子化学	職名 講師	氏名 伊藤 俊将
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年7月5日	科目「生物有機化学」において、構造が覚えやすいように、構造を系統的に分類し講義を行った。(授業評価: 4.0)
		2013年7月13日	科目「生物有機化学」において、タブレットを使用し、スライドに電子の動きが分かるように書き込むことで、生物は有機反応を基礎としていることが分かるようにした。(授業評価: 4.0)
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年11月10日	科目「基礎化学実験」の実習書「溶液の濃度調整と比重測定」の項を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Peroxisome Proliferator Activated Receptor γ and Oxidized Docosahexaenoic Acids as New Class of Ligand.	共著	2008年1月	Naunyn-Schmiedeberg's Arch. Pharmacol. 2008, 377, 541-547.
(論文) Structural basis for the activation of PPAR γ by oxidized fatty acids.	共著	2008年8月	Nat. Struct. Mol. Biol. 2008, 367, 566-572.
(論文) Synthesis of oxidized fatty acid derivatives via an iodolactonization reaction.	共著	2010年5月	Heterocycles. 2010, 80, 689-695.
(論文) A 3D model of CYP1B1 explains the dominant 4-hydroxylation of estradiol.	共著	2010年5月	J. Chem. Inf. Model. 2010, 50, 1173-1178.
(論文) A Mixed Population of Antagonist and Agonist Binding Conformers in a Single Crystal Explains Partial Agonism against Vitamin D Receptor: Active Vitamin D Analogues with 22R-Alkyl Group	共著	2014年4月	J. Med. Chem. 2014, 57, 4351-4367.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Reducing agent promotes hydroxylation of fatty acid by lipoxygenase		2014年6月	15th Tetrahedron Symposium, (ロンドン, UK)
III 学会および社会における主な活動			
2012年4月～2014年5月現在	公益社団法人 日本薬学会 トピックス小委員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬理学	職名 講師	氏名 神戸 敏江
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年1月16日	3年次科目「薬の効き方Ⅱ」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。またすでに履修済みの関連科目の基礎的内容を解説すると主に、アドバンストな内容も盛り込み学生の学習意欲・知欲の向上に努めた。 (授業評価：3.65)	
	2013年10月18日	1年次科目「生体機能調節と生理活性分子Ⅰ」において、内容をイメージしやすいように視聴覚資料(ビデオ)を多用した講義を行った。(授業評価：3.8)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年9月1日	科目「薬理学実習」の項目「薬物の神経伝導速度に及ぼす影響」について、視聴覚教材を作成した。	
	2008年9月～20014年	科目「薬の効き方Ⅱ」の講義資料の作成。毎年改訂	
	2008年9月1日 2009年9月1日	科目「薬理学実習」の実習書「薬理学学実習指針」の改訂を行った。	
	2013年9月20日	1年次科目「生体機能調節と生理活性分子Ⅰ」において、参考資料を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2011年10月9,10日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ研修会(神奈川)においてタスクフォースを務めた。	
	2012年1月8,9日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ研修会(東京)においてタスクフォースを務めた。	
	2012年9月16,17日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ研修会(神奈川)においてタスクフォースを務めた。	
	2013年1月13,14日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ研修会(東京)においてタスクフォースを務めた。	
	2013年10月13,14日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ研修会(神奈川)においてタスクフォースを務めた。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2010年4月～ 2012年3月	本学初の英語能力別クラスの実地に向けプレイスメントテストの導入等について企画・運営を行った。	
	2013年12月18日	本学のFDワークショップを企画・運営した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Nitric oxide-mediated modulation of calcium/calmodulin-dependent protein kinase II.	共著	2008年6月	Biochem J., 412(2), 223-31.
Inactivation of Ca2+/calmodulin-dependent protein kinase I by S-glutathionylation of the active-site cysteine residue.	共著	2010年6月	FEBS Lett., 584(11), 2478-84.
Nitric oxide prevents phosphorylation of neuronal nitric oxide synthase at serine1412 by inhibiting the Akt/PKB and CaM-K II signaling pathways.	共著	2012年7月	Int J Mol Med., 30(1), 15-20.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）パクリタキセル誘発末梢神経障害モデルラットにおける脊髄でのP2X4受容体の関与	2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 医薬情報評価教育 串田	職名 講師	氏名 串田 一樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫	(授業評価等を含む)	2008年9月17日以降	科目「社会薬学」において、ワークシートを導入し、学生にポイントとなるキーワードを書かせる工夫をした。
		2010年9月17日以降	科目「社会と薬局」において、1人ずつ薬局の名称、平面図、正面図などをデザインさせ、発表を取り入れた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年6月以降	科目「実務実習事前学習」の導入実習(3年次)の実習書を毎年作成
		2010年6月以降	科目「実務実習事前学習」の前期・後期実習(4年次)の実習書を毎年作成
		2010年9月以降	科目「社会と薬局」の後期(3年次)の教材を毎年作成
		2011年4月以降	科目「在宅医療と薬局」(6年次)の教材を毎年作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2008年9月7日	日本社会薬学会第27年会(東京)で「薬学教育モデル・コアカリキュラム『A-(3)信頼関係の確立を目指して』の実践報告」を発表。
		2009年3月28日	日本薬学会第129年会(京都)で「薬学における初年次教育の意義—高校生から大学1年生への円滑な移行を目指して」を発表。
		2010年3月29日	日本薬学会第130年会(岡山)で「2025年の超高齢社会が求める地域医療—薬学アドバンスド教育の構築意義」を発表。
		2011年9月24日	第5回日本緩和医療薬学会年会(千葉)で「6年間の学部教育で取り組んだ緩和医療教育」を発表した。
		2012年3月30日	日本薬学会第132年会(札幌)で「地域社会から学ぶ『いのち』の教育—緩和医療教育の構築を目指して」を発表。
		2012年9月28日	第38回日本重症心身障害児学会(東京)で「障がい児との触れ合いを通して—薬学教育の視点から」を発表。
		2013年3月29日	日本薬学会第133年会(横浜)で「離島医療に対する薬学教育の取組」を発表した。
		2013年9月15日	第7回日本緩和医療薬学会(幕張)で「多くの学びから選んだ緩和ケアへの道」を発表。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2009年5月14日	1年次ワークショップ合宿の委員として企画、運営に参加した。
		2010年8月20日	日本肢体不自由児協会主催の高木記念キャンプにボランティアとして学生と一緒に参加した。
		2011年4月以降	横浜市瀬谷区にあるめぐみ在宅クリニックのカンファレンスに毎回学生を引率し、在宅現場の実際を学ぶ機会としている。月に1回さんかしている。継続中
		2011年4月以降	町田市主催の「障がい児」のスポーツ教室にボランティアとして、学生と一緒に参加している。継続中
		2011年11月以降	町田市主催の「夢舞生つすい祭り」に認知症の友の会のサポータとして学生と一緒に参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)健康とは何か—新しい健康観を求めて—	共著	2008年3月	共立出版、2008年3月
(論文)在宅医療と薬剤師	単著	2008年5月	薬剤学, 68, 2008

(著書)日本の科学技術一世紀転換期の社会史 1995年～2011年 医薬分業	共著	2011年12月	日本の科学技術一世紀転換期の社会史 第4巻, 2011
(著書)日本の科学技術一世紀転換期の社会史 1995年～2011年 医療廃棄物の適正処理	共著	2011年12月	日本の科学技術一世紀転換期の社会史 第4巻, 2011
(著書)最新実地医家のための在宅医療実践ガイドー入門から最前線までー	共著	2013年4月	文光堂 2013
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 医薬分業と在宅医療ー在宅緩和医療を支援する医薬品提供体制ー		2008年6月	第31回日本プライマリ・ケア学会(岡山)
(演題名) 薬学における初年児教育の意義ー高校生から大学1年生への円滑な移行を目指してー		2009年3月	日本薬学会第129年会(京都)
(演題名) 在宅医療における薬局機能及び薬剤師に役割		2010年6月	第12回日本医療マネジメント学会(札幌)
(演題名) Promoting Home Palliative Care -The Role of Pharmacists		2011年9月	71 st International Congress of FIP, 2011
(演題名) がん診療連携拠点病院における退院時調整について		2012年6月	第23回日本在宅医療学会(横浜)
(演題名) 地域緩和医療における薬物治療の共同管理		2013年9月	第7回日本緩和医療薬学会(幕張)
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2008年4月～2014年3月 現在	日本社会薬学会 幹事 事務局長(2014年4月から副会長)		
2008年4月～2014年5月 現在	有害・医療廃棄物研究会 理事 学術委員		
2008年4月～2014年5月 現在	日本プライマリケア学会 編集委員		
2008年4月～2014年5月 現在	Home Infusion Pharmacy (HIP研究会) 会長		
2009年3月	日本薬学会第129年会の演題「自殺防止に薬剤師が果たせる役割」がハイライト演題に選出された。		
2009年10月25日	第19回日本医療薬学会年会シンポジウム「地域医療から在宅医療まで」のシンポジストを務めた。		
2010年3月	東京薬科大学・学生支援GP外部評価委員を委嘱される。		
2010年11月	第20回日本医療薬学会年会 シンポジウム19「多職種連携によるがん患者のケアとケア」のオーガナイザーを務めた。		
2010年9月	第4回日本緩和医療薬学会年会 シンポジウム11「全人的なケアを目指した緩和医療教育についてー薬学教育6年制における薬学アドバンス教育の構築」のシンポジストを務めた。		
2013年9月	第7回緩和医療薬学会シンポジウム「地域緩和医療における薬物治療の共同管理」のオーガナイザー及びシンポジストを務めた。		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 化学系薬学教育 の名 小池	職名 講師	氏名 小池 猛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年, 2009年 「9月30日」	科目「化学演習1」[1/2分担部分の責任者](1年次前期:2年間で合計16コマ担当[1コマ=90分]):プロジェクター視覚資料を多用した講義を行った。(2009年9月の授業評価:3.6)
		2008年4月7日～ 9月30日	科目「卒業実習教育:旧4年制度下」[科目責任者](4年次前期卒業延期生を担当):当個人研究室で卒業研究演習ゼミのため、4年次卒業延期生を合計2名、指導した。
		2008, 2009, 2010 , 2011, 2012, 2013 年「9月30日」	科目「物質の性質と化学分析1実習」[科目担当責任者](2年次前期:6年間で合計78日間(再実習[試験]6日間含む)を担当):プロジェクター視覚資料を多用した実習講義、及び実習実技を教員4名にて分担し行った。高性能HPLC機器を用いた実践的教育を充実した。(2013年9月の授業評価:3.9)
		2008, 2010, 2011 , 2012, 2013 [5月 ～翌年3月] (2014年3月31日 まで)	科目「病院薬局実務実習」[分担者:薬局実務実習担当教員](旧4年次と現5年次前後期:5年間で合計のべ18薬局へ[40日間]出張し、学生合計数19名を担当):病院薬剤部or薬局で実務実習する学生の評価指導のため、薬局を訪問した。
		2008年(旧4年 制:9月30日)と 2012, 2013, 2014年(6 年制:3月31日)	科目「最終総合演習(卒業薬学演習試験)」[分担者](旧4年次前期認定試験と現6年次後期:4年間で合計30問題の作成を担当):卒業試験と薬剤師国家試験を念頭におき、6年間で学んだ総復習的な最終試験問題の作成を分担し行った。
		2009年 「9月30日」	科目「薬学英語3」[1/3分担部分の責任者](3年次前期:合計8コマ担当):プリント資料を用いた実践的な化学英文献の読解の講義を行った。(2009年9月ので授業評価:3.9)
		2009, 2010, 2011 , 2012, 2013, 2014 年「3月31日」	科目「基礎化学実験(実習)」[科目担当責任者](1年次後期:6年間で合計78日間(再実習[試験]6日間含む)を担当):プロジェクター視覚資料を多用した実習講義及び実習実技を教員4名で分担し行った。(2014年3月の授業評価:4.0)
		2009, 2010, 2011 , 2012, 2013, 2014 年「3月31日」	科目「天然物医薬品の化学構造1実習」[分担部分の実習担当者](3年次後期:6年間で合計84日間(再実習12日間含む)を担当):実習講義用の図式解説用模造紙・プリント資料を用いた実習講義及び実習実技を教員4名で分担し行った。
		2010, 2011, 2012 , 2013年「10月下 旬～11月上旬」	科目「早期体験学習:解剖見学実習」[コーディネータ:分担者](1年次後期:4年間で合計12回、聖マリア[11日間]出張し担当):解剖見学実習のため「聖マリアナ医科大学」へ訪問し、1年生を引率・分担し実習をした。
		2011年「9月30 日」	科目「情報科学実習」[分担の実習担当者](1年次前期:合計12日間を担当):コンピュータ機器を用いた実習(Word, Chem Draw等)を教員4名にて分担し実習した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年6月1日	科目「物質の性質と化学分析1実習」[科目担当責任者](2年次前期):実習プリント[液体クロマトグラフ(HPLC)法]項目の実習要項、及びHPLC実習機器操作法の解説用OHP(プロジェクタ使用型)を6年制に伴い作成した。

	2010年11月10日 2011年11月10日	科目「基礎化学実験(実習)」[科目担当責任者](1年次後期)：[酢酸エチルの合成]実習項目の実験操作法の解説用OHP(プロジェクタ使用型)、及び実習(全体)プリントの追加作成と改訂を行った。	
	2011年9月1日	科目「天然物医薬品の化学構造1実習」[分担部分の実習担当者](3年次後期)：実習講義用の図式解説用教材模造紙の作成とプリントの修正改訂作業を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2008. 4月～ 2014. 5. 1(6年間) 2008. 4月～ 2014. 5. 1(6年間) 2009. 7月～ 2011. 3. 31(1年半)	本学の環境保全委員会委員として、学生へ[排水・廃棄物管理指針]の説明のための講義、学生実習用廃液と研究室実験用廃液の回収と搬出、廃棄物対策への審議・活動を行った。 本学の英語教育委員会委員として、6年制での英語教育方針・カリキュラム等についての審議・活動を行った。 本学の創立80周年記念事業実行委員会[寄付事業担当委員]として、在学生・卒業生に対し記念事業(卒業生名簿確認作業、寄付金集め、コンサート会場案内等)の活動を行った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(原著論文) Takeshi Koike: A New Interesting Phenolic Compound from the Resin of Dracaena draco	単著	2014年2月	昭和薬科大学紀要, vol. 48: 1-11.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2008年4月1日～2014年5月1日 現在	一般社団法人 昭薬同窓会委員(＝代議員)を務めた。		
2009年5月～2010年4月	昭薬同窓会 同議会議事録署名人を務めた。		
2008年4月1日～2014年5月1日 現在	(社)日本薬学会、(社)有機合成化学協会、アメリカ化学会、イギリス化学会の4学会に役員等ではなく、単なる正会員として所属をしていた。		
2013年11月23日	昭和薬科大学第3回D-32期Aクラス同窓会(卒業30周年記念)会合の代表幹事「会場：昭和薬科大学(大学見学会会場)、及びホテルザエルシィ町田(パーティー会場)」を務めた。		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬剤学	職名 講師	氏名 小泉 直也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2009年9月30日	学生実習「製剤材料の性質と剤形の調製実習」において、各種製剤の特徴を理解できるような実習をおこなった。	
	2010年9月30日	学生実習「製剤材料の性質と剤形の調製実習」において、各種製剤の特徴を理解できるような実習をおこなった。	
	2011年9月30日	学生実習「製剤材料の性質と剤形の調製実習」において、各種製剤の特徴を理解できるような実習をおこなった。	
	2012年9月30日	学生実習「製剤材料の性質と剤形の調製実習」において、各種製剤の特徴を理解できるような実習をおこなった。	
	2013年9月30日	学生実習「製剤材料の性質と剤形の調製実習」において、各種製剤の特徴を理解できるような実習をおこなった。	
	2013年9月30日	科目「薬物送達システム」において、他の科目との関連性をわかりやすく講義することを工夫し、これまで用いられてきた医薬品の製剤学的な技術と今後利用される医薬品技術の講義を行った。(授業評価：4.3)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2009年9月30日	科目「製剤材料の性質と剤形の調製」の実習書「製剤材料の性質と剤形の調製 実習要項」を作成した	
	2010年9月30日	科目「製剤材料の性質と剤形の調製」の実習書「製剤材料の性質と剤形の調製 実習要項」を作成した。	
	2011年9月30日	科目「製剤材料の性質と剤形の調製」の実習書「製剤材料の性質と剤形の調製 実習要項」を作成した。	
	2012年9月30日	科目「製剤材料の性質と剤形の調製」の実習書「製剤材料の性質と剤形の調製 実習要項」を作成した。	
	2013年9月30日	科目「製剤材料の性質と剤形の調製」の実習書「製剤材料の性質と剤形の調製 実習要項」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		該当なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Ephrin A2 receptor targeting does not increase adenoviral pancreatic cancer transduction in vivo.	共著	2009年6月	World J Gastroenterol., 15(22), 2754-2762
（論文）A highly efficient short hairpin RNA potently down-regulates CCR5 expression in systemic lymphoid organs in the hu-BLT mouse model.	共著	2010年2月	Blood, 115(8), 1534-1544
（論文）A novel HIV-1 reporter virus with a membrane-bound Gaussia princeps luciferase.	共著	2012年7月	J. Virol. Methods., 183(1), 49-56
（論文）Percolation analysis in electrical conductivity of Madin-Darby Canine Kidney and Caco-2 cells by permeation-enhancing agents	共著	2013年3月	Biol. Pharm. Bull., 36(6), 384-389
（論文）Sec61β Regulates Barrier Functions of Tight Junction through Expression of Claudin-4 in Madin-Darby Canine Kidney Cells.	共著	2014年6月	Biol. Pharm. Bull., 37(6), 1-8

2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）メーキング用アデノウイルスベクターの開発		2014年7月	第30回日本DDS学会
（演題名）上皮細胞へのアデノウイルス感染におけるSnail転写因子の影響		2014年7月	第30回日本DDS学会
（演題名）細胞膜透過促進能を持つアデノウイルスshaftタンパク質の結合要因の解析		2014年7月	第30回日本DDS学会
（演題名）異なる皮膚状態におけるウフェナマートの皮膚移行に与える基剤の影響		2014年5月	日本薬剤学会第29年会
（演題名）角層除去皮膚におけるウフェナマートと基剤の皮膚移行量の関係		2014年5月	日本薬剤学会第29年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2009年4月～2014年3月	日本DDS学会 広報委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 生化学	職名 講師	氏名 坂田 宣夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年9月19日- 2012年11月14日	科目「細胞構成分子」において、パワーポイントによる講義(e-learningによる小テストを含む)を7コマx2回行った。(授業評価:3.8)
		2013年4月10日- 2013年7月10日	科目「生体エネルギー」において、パワーポイントによる講義(e-learningによる小テストを含む)を14コマx2回行った。(授業評価:3.7)
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年6月1日	科目「生化学実習」の実習書新規項目「ジデオキシ法によるDNA塩基配列の決定とBLASTによるホモロジー検索」を作成した。
		2014年6月2日	科目「生化学実習」の実習書新規項目「SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動法によるタンパク質の分離」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年12月19日	昭和薬科大学FDワークショップ「本学独自のカリキュラムを作る」に参加し、グループ教員と協力してモデルカリキュラムを作製した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) ZFX4 Interacts with the NuRD Core Member CHD4 and Regulates the Glioblastoma Tumor-Initiating Cell State.	共著	2014年2月	Cell Rep., 6 , 313-324.
(論文) C18 ORF1: A Novel Negative Regulator of TGF- β Signaling.	共著	同年3月	J. Biol. Chem., 289 , 12680-12692.
(論文) TGF- β signaling cooperates with AT motif-binding factor-1 (ATBF1) for repression of the α -fetoprotein promoter.	共著	同年5月	J. Signal Transduct., <i>in press</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Negative regulation of α -fetoprotein gene transcription by TGF- β signaling with AT motif binding factor 1 (ATBF1)		2014年5月	TGF- β Meeting 2014 in Leiden
III 学会および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 医薬分子化学	職名 講師	氏名 佐藤 美鶴
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2011年4月12日	科目「化学Ⅰ」において、ノートを取りやすいように講義用パワーポイント資料を講義前に配布して講義を行った。(授業評価：3.5)	
	2012年4月27日	科目「化学Ⅰ」において、演習問題を学務システムに事前にアップし、自主的な学習を進めた。(授業評価：3.5)	
	2013年5月2日	科目「化学Ⅰ」において、演習問題を学務システムに事前にアップし、自主的な学習を進めるとともに講義後解答を学務システムにアップし復習を促した。(授業評価：3.5)	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Kaurene-Type Diterpenoids from <i>Aristolichia brasiliensis</i>	共著	2011年1月	生薬学雑誌, 65 (1), 54-55
(論文) Phenolic Diterpenes Derived from <i>Hyptis incana</i> Induce Apoptosis and G2/M Arrest of Neuroblastoma Cells	共著	2012年11月	Anticancer Research, 32, 4781-4790
(論文) New Humulenes from <i>Hyptis incana</i> (Labiatae)	共著	2013年12月	Nat. Prod. Comm., 8 (12), 1665-1668
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬物動態学	職名 講師	氏名 清水 万紀子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年	科目「薬物動態ⅠおよびⅡ」において、パワーポイントを用いて講義を行った。(授業評価：3.7)	
	2013年	科目「薬物動態ⅠおよびⅡ」において、パワーポイントを用いて講義を行った。(授業評価：3.9)	
	2014年	科目「薬物動態Ⅰ」において、パワーポイントを用いて講義を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2009年	科目「薬物動態学実習」の実習書「薬物動態実習要項」を作成した。	
	2010年5月	科目「薬物動態学実習」の実習書「薬物動態実習要項」を作成した。	
	2011年	科目「薬物動態学実習」の実習書「薬物動態実習要項」を作成した。	
	2012年9月	科目「薬物動態学実習」の実習書「薬物動態実習要項」を作成した。	
	2013年9月	科目「薬物動態学実習」の実習書「薬物動態実習要項」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当しない	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2009年12月	昭和薬科大学FD研修会参加	
	2010年12月	昭和薬科大学FD研修会参加	
	2011年12月	昭和薬科大学FD研修会参加	
	2012年12月	昭和薬科大学FD研修会参加	
	2013年3月	昭和薬科大学大学院FDワークショップ参加	
	2013年12月	昭和薬科大学FD研修会参加	
	2014年3月	昭和薬科大学大学院FDワークショップ参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Developmental variations in metabolic capacity of flavin-containing monooxygenase 3 in childhood.	共著	2011年4月	Brit. J. Clin. Pharmacol. 71, 585-591
Variants in the flavin-containing monooxygenase 3 (FMO3) gene responsible for trimethylaminuria in a Japanese population.	共著	2012年11月	Mol. Genet. Metab., 107, 330-334
Survey of variants of human flavin-containing monooxygenase 3 (FMO3) and their drug oxidation activities.	共著	2013年6月	Biochem. Pharmacol., 85, 1588-1593
Molecular and functional characterization of flavin-containing monooxygenases in cynomolgus macaque.	共著	2013年4月	Biochem. Pharmacol., 85, 1837-1847
Relationships between flavin-containing monooxygenase 3 (FMO3) genotype and trimethylaminuria phenotype in a Japanese population	共著	2014年5月	Brit. J. Clin. Pharmacol., 77, 839-851

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
19th North American Regional ISSX Meeting and 29th JSSX Annual Meeting	2014年10月	国際薬物動態学会、 日本薬物動態学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2009年4月～2014年5月 現在	日本薬学会薬理系薬学部会 若手世話人	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬品分析化学	職名 講師	氏名 鈴木 憲子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年5月20日	「分析化学実習」のためのプリントおよび説明会資料(パワーポイント)を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2008年10月25日	日本化学会からの要請で化学実験実技講習会の講師を務めた。テーマ：イオン交換反応はなぜ起こる ―その理論と応用―
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 図解最先端イオン交換技術のすべて	共著	2009年3月	工業調査会
(論文) Interfering Effect for the Cesium Ion-Exchange Property of Sodium Difluorotetrasilicate and Sodium Taeniolite by Alkaline-Earth Metal Ions.	共著	2008年7月	Bull. Chem. Soc. Jpn., 81 (7), 912-916.
(論文) Relation between Drug-Induced Taste Disorder and Chelating Behavior with Zinc Ion; Statistical Approach to the Drug-Induced Taste Disorder, Part II.	共著	2008年8月	Chem. Pharm. Bull., 56 (8), 1177-1180
(論文) Electrochemical Disinfection Using Palladium-Coated Carbon Cloth Electrodes II. Electrochemical Disinfection Using a Solar Battery.	共著	2010年7月	Electrochemistry, 78 (7), 594-596
(論文) Approaches for cesium uptake by vermiculite.	共著	2013年9月	J. Chem. Technol Biotechnol, 88 (9), 1603-1605.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Cesium Adsorption Behavior of Vermiculite and its application to the column method.		2014年11月	6th International Ion Exchange Conference
III 学会および社会における主な活動			
2008年8月～2013年10月	日本イオン交換学会常任理事・庶務委員長		
2008年8月～2010年7月	日本学術振興会特別審査会専門委員		

2012年9月～2014年5月 現在	日本粘土学会常務委員会庶務委員
2014年3月～2014年5月 現在	日本分析化学会「ぶんせき」誌編集委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 臨床薬学教育	職名 講師	氏名 高田 公彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年5月30日	科目「香粧品科学」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.4)
		2014年1月15日	科目「社会と健康」において、厚労省HpからWeb上の情報を積極的に用い講義に反映させた。(授業評価: 4.0)
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年4月1日	科目「環境科学実習」の実習書「環境科学実習」を作成した。
		2012年4月1日	科目「環境科学実習」の実習書「環境科学実習」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Expression of thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor (TAFI) is up-regulated by increase in intracellular cyclic AMP levels in cultured HepG2 cells.	共著	2009年	Thrombosis and Haemostasis, 102 (6), 1204 ~ 1211.
(論文) Ursolic acid and oleanolic acid, members of pentacyclic triterpenoid acids, suppress TNF- α -induced E-selectin expression by cultured umbilical vein endothelial cells.	共著	2010年	Phytomedicine, 17 (14), 1114 ~ 1119.
(論文) Peroxisome proliferator-activated receptor- α agonists repress expression of thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor by decreasing transcript stability.	共著	2012年	Thrombosis and Haemostasis, 108 (1), 74 ~ 85.
(論文) Intravenous and oral administrations of DD2 [7-Amino-2-(sulfanylmethyl)heptanoic acid] produce thrombolysis through inhibition of plasma TAFIa in rats with tissue factor-induced microthrombosis.	共著	2012年	Thrombosis Research, 130 (4), e222 ~ e228.
(論文) Nobiletin, a polymethoxyflavone in citrus fruits, reduces TAFI expression in HepG2 cells through transcriptional inhibition.	共著	2013年	Thrombosis and Haemostasis, 109 (6), 1060 ~ 1069.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2014年4月～2014年5月 現在	町田市薬剤師会学校薬剤師		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 数理科学 瀧澤	職名 講師	氏名 瀧澤 誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年4月から7月	科目「力学・波動」において、演習とセットにした講義を行った。(授業評価：3.3)	
	2009年4月から7月	科目「力学・波動」において、演習とセットにした講義を行った。(授業評価：3.3)	
	2010年4月から7月	科目「力学・波動」において、演習とセットにした講義を行った。(授業評価：3.9)	
	2011年4月から7月	科目「力学・波動」において、演習とセットにした講義を行った。(授業評価：3.9)	
	2012年4月から7月	科目「力学・波動」において、演習とセットにした講義を行った。(授業評価：3.9)	
	2012年9月から2013年2月	科目「電磁気学・量子論」において、演習とセットにした講義を行った。(授業評価：2.9)	
	2013年4月から7月	科目「力学・波動」において、演習とセットにした講義を行った。(授業評価：3.3)	
	2013年9月から2014年2月	科目「電磁気学・量子論」において、演習とセットにした講義を行った。	
	2014年4月から5月	科目「力学・波動」において、演習とセットにした講義を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2011年11月25日	科目「力学・波動」および「電磁気学・量子論」に関する教科書「薬学生のための基礎シリーズ3 基礎物理学」(培風館)を刊行した。	
	2014年4月10日	科目「情報科学演習・実習」に関する教科書「薬学生のための基礎シリーズ8 情報リテラシー」(培風館)を刊行した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2008年10月18日	明治薬科大学ITコンソーシアムにおいて、「昭和薬科大学の情報教育システム」を講演した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2008年4月から2012年3月	大学の情報教育システムの設計、管理運営を担当した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)Sun試験対策 Javaプログラマ教科書 SJG-P6 [CX-310-065]対応	共著	2010年5月	ソフトバンククリエイティブ株式会社
(論文) DD^{bar} production and their interactions	共著	20010年7月	Phys. Rev. D 82 , 014011, 1-18
(論文) X(3872) as a hybrid state of charmonium and the hadronic molecule	共著	2013年9月	Prog. Theor. Exp. Phys. 093D01 , 1-18

(論文) The Isospin Mixing in the X(3872) Decay Spectrum	共著	2013年12月	Few-Body Syst. DOI 10.1007/s00601-013-0784- 0, 1-5
(論文) Radiative X(3872) Decays in Charmonium-Molecule Hybrid Model	共著	2014年2月	Few-Body Syst. DOI 10.1007/s00601-014-0830- 6, 1-4
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2009年9月～2012年4月	日本物理学会 会誌編集委員		
2010年9月～2014年5月 現在	日本物理学会 研究費配分に関する教育研究環境検討委員会委員		
2012年9月～2014年5月 現在	人事院 国家公務員採用一般職試験 (大卒程度) (物理) 試験専門委員		
2013年10月～2014年5月 現在	大学等放射線施設協議会 常議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	昭和薬科大学	研究室等の名	薬剤師実務教育 土肥	職名	講師	氏名	土肥 弘久
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1	教育内容・方法の工夫	(授業評価等を含む)	2013年10月30日 2013年11月6日		3年次の科目「医療薬学概論」において、学生が大学で学ぶ各科目の内容と臨床業務のつながりを意識した講義を実践した。		
			2013年2月15日		3年次の科目「実務実習事前学習」における計数調剤の項目で、簡単な実験を取り入れることで医薬品の製剤としての特徴と体内動態を関連付けることができるように工夫した。		
			2013年－2014年		5年次の科目「患者情報から病態を読む」において、PBLを実践し学生の自主的な学習を進めた。		
2	作成した教科書、教材、参考書		2013年5月17日		科目「実務実習事前学習」の実習書「実務実習事前学習 実習テキスト（疑義照会の基本を学ぶ）」を毎年度作成している。		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4	その他教育活動上特記すべき事項	(FDを含む)	2008年－2012年 (4月－7月)		埼玉医科大学総合医療センター看護専門学校 非常勤講師として15コマ/年（1コマ90分）講義を行った。		
			2012年4月－7月		日本薬科大学において、科目「薬剤学Ⅱ」の講義を行った。（授業評価：3.8）		
			2012年11月3, 4日		認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(埼玉県)のタスクフォース		
			2012年－2013年 (4月－7月)		日本医歯薬専門学校 登録販売者学科 非常勤講師として15コマ（1コマ90分）講義を行った。		
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称			単著・共著の別		発行または発表の年月（西暦でも可）		発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) The Application of Proteomics to PK-PD Modeling and Simulation.			共著		2011年8月		J. Bioequiv. Availab. S2-002.
(著書) 薬学性のための実務実習事前学習テキスト			共著		2013年8月		ネオメディカル出版
(著書) イラストでみる疾病の成り立ちと薬物療法			共著		2013年9月		医学評論社出版
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月		学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
2012年4月－2013年3月		埼玉県薬剤師会 実務実習委員会委員					
2014年4月－現在		東京都薬剤師会 実務実習委員会委員					

- [注]
- 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 生物系薬学教育 の名 中里	職名 講師	氏名 中里 朱根
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年9月30日	科目「生物学I」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 3.61)	
	2012年3月31日	科目「生物学II」において、学生の理解度を測るため小テストを授業中に行い、学生の自主的な学習を促した。(授業評価: 4.15)	
	2013年9月30日	科目「A3: 信頼関係の構築～コミュニケーション～」において、SGDやロールプレイを行い、実践的教育を充実した。(授業評価アンケートは単独では行わず)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2011年9月1日	科目「基礎生物学実習」に関する資料を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 植物細胞壁	共著	2013年3月	講談社サイエンティフィック
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) イールディンとミトリササゲ内在性 α -ガラクトシダーゼの比較		2014年9月	日本植物学会第78回大会
III 学会および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬物動態学	職名 講師	氏名 村山 典恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2009年6月	薬物動態学Iにおいてパワーポイントと補足のプリントを配布した授業を行った。(評価3.7)
		2009年10月	化学物質と毒性においてパワーポイントを用いて授業を行った。(評価3.5)
		2010年4月～7月	薬物動態学Iにおいてパワーポイントと補足のプリントを配布した授業を行った。(評価3.4程度)
		2011年4月～7月	薬物動態学Iにおいてパワーポイントと補足のプリントを配布した授業を行った。(評価3.5程度)
		2011年5月～7月	薬物動態学Iにおいてパワーポイントと補足のプリントを配布した授業を行った。(評価3.5)
		2012年6月	薬物動態学Iにおいてパワーポイントと補足のプリントを配布した授業を行った。(評価3.5)
		2012年9月～10月	薬物動態学IIにおいてパワーポイントと補足のプリントを配布した授業を行った。(評価3.6)
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年～2014年現在	毎年の薬物動態学実習書を改訂
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2012年4月～2014年6月現在	FD委員として活動に参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
がん増殖と悪性化への分子機構	共著	2012年9月	化学同仁社
Evaluation of 23 lots of commercially available cryopreserved hepatocytes for induction assays of human cytochromes P450	共著	2014年3月	Drug Metab. Desps. Vol. 42 (5)
Thalidomide increases human hepatic cytochrome P450 3A enzymes by direct activation of the pregnane X receptor.	共著	2014年2月	Chem. Res. Toxicol. vol. 27 (2)
Monkey liver cytochrome P450 2C9 is involved in caffeine 7-N-demethylation to form theophylline.	共著	2013年12月	Xenobiotica vol. 43(12)

In vivo drug interactions of the teratogen thalidomide with midazolam: heterotropic cooperativity of human cytochrome P450 in humanized TK-NOG mice	共著	2013年3月	Chem. Res. Toxicol. vol. 26 (3)
CYP3A4 intron 6 C>T polymorphism (CYP3A4*22) is associated with reduced CYP3A4 protein level and function in human liver microsomes.	共著	2013年1月	J. Toxicol. Sci. vol 38 (3)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Roles of auto-induction of human P450 3A enzymes involved in the teratogenicity of thalidomide		2014年10月	ISSX/JSSX Meeting
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2013年10月～2014年6月現在	内閣府食品安全委員会 化学物質・汚染物質評価委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬化学	職名 講師	氏名 森田 延嘉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2009年9月30日	実習「有機化学実習I」において、作成した実習書を利用して実習を行った。実習終了後、面談を実施し、各学生の理解度を把握すると共に少人数での指導を行った。
		2010年3月31日	科目「有機化学I」において、授業中に例題等を与えながら、講義を行った(授業評価: 3.75)。また自習的な学習を進めた。実習「有機化学実習I」は前年度と同様に、教育を行った。
		2011年3月31日	科目「有機合成化学I」において、独自に作成した資料を利用して、講義を行った(授業評価: 4.35)。授業中に例題等を与え、自習的な学習を進めた。また実習「有機化学実習I」は前年度と同様に、教育を行った。
		2012年3月31日	科目「有機合成化学I」において、独自に作成した資料を利用して、講義を行った(授業評価: 4.23)。授業中に例題等を与え、自習的な学習を進めた。また実習「有機化学実習I」は前年度と同様に、教育を行った。
		2013年3月31日	科目「有機化学II」において、授業中に例題等を与えながら講義を行った(授業評価: 4.46)。課題を与え、自習的な学習を進めた。また実習「有機化学実習I」は前年度と同様に、教育を行った。
		2014年3月31日	科目「有機化学II」において、過去に出題された問題等を利用して講義を行い、学生の理解度を深めた(授業評価: 4.41)。また実習「有機化学実習I」は前年度と同様に、教育を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年4月1日	「有機化学実習I」の実習書(2009年度版)を作成した。
		2010年4月1日	「有機化学実習I」の実習書(2010年度版)を作成した。
		2011年4月1日	「有機化学実習I」の実習書(2011年度版)を作成した。
		2012年4月1日	「有機化学実習I」の実習書(2012年度版)を作成した。
		2013年4月1日	「有機化学実習I」の実習書(2013年度版)を作成した。
		2014年4月1日	「有機化学実習I」の実習書(2014年度版)を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Stereoselective Vinylogous Mannich Reaction of 2-Trimethylsilyloxyfuran with N-Gulosyl Nitrones.	共著	2011年8月	Org. Biomol. Chem. 2011, 9, 7411-7419.
(論文) Synthesis of the Proposed Structure of Phaeosphaeride A.	共著	2011年5月	Org. Biomol. Chem. 2011, 9, 5825-5832.

(論文) Synthesis and Biological Evaluation of Tubulysin D Analogues Related to Stereoisomers of Tubuvaline.	共著	2011年1月	<i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i> 2011 , 21, 431-434.
(論文) Total Syntheses of Tubulysins.	共著	2010年8月	<i>Chem. Eur. J.</i> 2010, 16, 11678-11688.
(論文) Synthesis and Evaluation of Opioid Receptor-binding Affinity of Elaeocarpenine and its Analogs.	共著	2010年3月	<i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i> 2010 , 20, 1601-1603.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Gold-catalyzed Efficient synthesis of Cyclic Ethers bearing carbonyl group via Tandem Meyer-Schuster Rearrangement and Oxa-Michael Addition		2014年8月	5th EuCheMS Chemistry Congress
(演題名) 金(I)/(III)触媒による環状エーテル類の合成: 価数による環化様式の制御		2014年9月	第44回複素環化学討論会
(演題名) 金触媒を利用したピペリジン類の合成: 価数による環化様式の制御		2014年11月	第40回反応と合成の進歩シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2008年4月～2011年3月	ファルマシアトピックス小委員会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の名 薬品化学	職名 助教	氏名 伊藤 愛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年6月 2014年6月	科目「有機化学実習Ⅱ」において、薬理作用のあるアンチピリンの合成および精製を行う有機化学実習。実際に反応装置を組み、合成することで授業で学んだ反応について体験し理解する。
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年5月～ 2014年5月	「有機化学実習Ⅱ実習書」において、有機化学実習における安全、基本的操作また原理と応用について詳細に述べた教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
On the Structure of “5-Nitrosotropolone” .	共著	2009年2月	J. Org. Chem., 74 , 1275-1281.
Novel Synthesis of Ureas: Application of t-Butylureas.	共著	2010年1月	Chem. Pharm. Bull., 58 (1), 82-86.
(R)- and (S)-4-Amino-3-(trimethylsilyl)methylbutanoic Acids Ameliorate Neuropathic Pain without Central Nervous System-related Side Effects.	共著	2012年10月	Bioorg. Med. Chem. Lett., 22 (24), 7602-7604.
Deprotonation Equilibrium of 5-Tropolonediazonium Salt Strongly Favors 1,2,5-Tropoquinone-5-diazide Structure in Certain Solvents.	共著	2013年7月	J. Org. Chem., 78 , 5470-5475.
A Novel Aromatic Carboxylic Acid Inactivates Luciferase by Acylation of an Enzymatically Active Regulatory Lysine Residue.	共著	2013年9月	PLoS ONE, 8 , e75445.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Conformational preferences and alteration of N,N-diaryl amides bearing tropolone and pyridine.		2014年8月	248th American Chemical Society National Meeting & Exposition
(演題名) Acid-induced folding of aromatic N-methyl amides bearing pyridine-2-carboxylic amides.		2014年8月	248th American Chemical Society National Meeting & Exposition
(演題名) N-ピリジル型およびN-トロポニル型芳香族アミドの立体構造特性と構造変換		2014年9月	第44回複素環化学討論会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬物動態学	職名 特任助教	氏名 上原 正太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) A novel CYP2A26 identified in cynomolgus monkey liver metabolizes coumarin.	共著	2010年9月	Xenobiotica, 40, 621-629.
(著書) CYP2G2, pseudogenized in human, is expressed in nasal mucosa of cynomolgus monkey and encodes a functional drug-metabolizing enzyme.	共著	2011年4月	Drug Metab. Dispos., 39, 717-723.
(著書) Immunochemical detection of cytochrome P450 enzymes in liver microsomes of 27 cynomolgus monkeys.	共著	2011年11月	J. Pharmacol. Exp. Ther., 339, 654-661.
(論文) CYP2C76 non-synonymous variants in cynomolgus and rhesus macaques.	共著	2012年6月	Drug Metab. Pharmacokinet., 27, 344-348.
(論文) Evaluation of 23 lots of commercially available cryopreserved hepatocytes for induction assays of human cytochromes P450.	共著	2014年5月	Drug Metab. Dispos., 42, 867-871.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Metabolism of 1-Methyl-4-phenyl-1,2,3,6-tetrahydropyridine in liver and brain microsomes of common marmosets		2014年10月	19th International Society for the Study of Xenobiotics
III 学会および社会における主な活動			
		特になし	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 統合感染免疫学	職名 助教	氏名 梶川 瑞穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書	2013年8月29日	科目「微生物学実習」の実習書「微生物学実習書」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年12月19日	本学FDワークショップに参加した。	
	2013年10月13日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップを受講した。	
	2013年12月18日	本学FDワークショップに参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) The intertransmembrane region of Kaposi's sarcoma-associated herpesvirus modulator of immune recognition 2 contributes to B7-2 downregulation.	共著	2012年3月	J. Virol., 86 (9), 5288-5296.
(論文) Involvement of an NKG2D ligand H60c in epidermal dendritic T cell-mediated wound repair.	共著	2012年4月	J. Immunol., 188 (8), 3972-3979.
(論文) The long-term immunosuppressive effects of disulfide-linked HLA-G dimer in mice with collagen-induced arthritis.	共著	2013年4月	Hum. Immunol., 74 (4), 433-438.
(論文) NKG2D triggers cytotoxicity in murine epidermal $\gamma\delta$ T cells via PI3K-dependent, Syk/ZAP70-independent signaling pathway.	共著	2014年2月	J. Invest. Dermatol., 134 (2), 396-404.
(論文) Loss of MHC II ubiquitination inhibits the activation and differentiation of CD4 T cells.	共著	印刷中	Int. Immunol., 26 (5), 283-289.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			学会名
(演題名)			
(演題名)			
III 学会および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 機器分析研究施設 の名 設	職名 助教	氏名 清谷 多美子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Synthesis of the proposed structure of phaeosphaeride A	共著	2011年8月	Org. Biomol. Chem. 9 , 5825-5832
(論文) Furanoditerpenes from Arcangelisia flava (L.) Merr. and their antifungal activity	共著	2011年9月	Phytochemistry Lett. 4 , 333-336.
(論文) L-Leucylglycine 0.67-hydrate and [(4S)-2,2-dimethyl-4-(2-methylpropyl)-5-oxoimidazolidin-3-ium-1-yl]acetate	共著	2012年12月	Acta Cryst. Sec.C C68 , o498-o501.
(論文) Instrument Design and Performance Evaluation of a New Single Crystal Neutron Diffractometer SENJU at J-PARC	共著	2014年3月	JPS Conf. Proc. 1 , 014013
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Towards direct observation by μ SR of electron transfer due to enzymatic reaction in trypsin		2014年7月	2nd International Symposium on Science at J-PARC
(演題名) Observation of electron transfer associated with enzymatic process by μ SR		2014年8月	23rd International Union of Crystallography Congress and General Assembly (IUCr2014)
III 学会および社会における主な活動			
2008年8月～2012年3月	日本結晶学会男女共同参画推進委員会委員長・幹事		
2012年4月～2014年3月	日本結晶学会評議員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 実習・教育支援室	職名 助教	氏名 佐藤 良夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 特集 小児の漢方療法-エキスをいこなそう II. 漢方の基礎と薬効・その発展 漢方薬はなぜ効くのか	共著	2010年3月	診断と治療社, 小児科診療, 73 (3), 375-379
(論文) Kaurene-Type Diterpenoids from <i>Aristolichia brasiliensis</i>	共著	2011年1月	生薬学雑誌, 65 (1), 54-55
(論文) Phenolic Diterpenes Derived from <i>Hyptis incana</i> Induce Apoptosis and G2/M Arrest of Neuroblastoma Cells	共著	2012年	Anticancer Research, 32 , 4781-4790
(論文) New Humulenes from <i>Hyptis incana</i> (Labiatae)	共著	2013年12月	Nat. Prod. Comm., 8 (12), 1665-1668
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 天然物化学	職名 助教	氏名 篠崎 淳一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Dammaradiene Synthase, a Squalene Cyclase, from <i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai	共著	2008年10月	Phytochemistry, 69, 2559-2564
Identification of medicinal <i>Dendrobium</i> species by phylogenetic analyses using matK and rbcL sequences	共著	2010年2月	J. Nat. Med., 64, 133-138
Molecular evolution of fern squalene cyclases	共著	2010年2月	ChemBioChem, 11, 426-433
Composite constituent: lactucenyl acetate, a novel migrated lupane triterpenoid from <i>Lactuca indica</i> . Revision of structure of tarolupenyl acetate	共著	2011年6月	Chem. Pharm. Bull., 59, 767-769
Cyclization of all-E- and 2Z-geranyl farnesols by a bacterial triterpene synthase: insight into sesterterpene biosynthesis in <i>Aleuritopteris</i> ferns	共著	2013年11月	Biosci. Biotechnol. Biochem., 77, 2278-2282
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Mining the genes involved in carthamin biosynthesis in safflower, <i>Carthamus tinctorius</i> L.		2014年9月	ICP2014 (International Conference on Polyphenols)
中国産 <i>Adiantum davidii</i> のトリテルペノイド		2014年9月	日本生薬学会第61回年会
中国広東省汎用生薬広東土槿皮の生薬学的研究		2014年9月	日本生薬学会第61回年会
ベニバナ色素キノカルコン類のMS ² 解析		2014年9月	日本生薬学会第61回年会
III 学会および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 統合感染免疫学	職名 助教	氏名 嶋 秀明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2014年4月1日	卒業研究教育において実験の取り組み方について指導した。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Identification of TOSO/FAIM3 as an Fc receptor for IgM,	共著	2010年3月	Int. Immunolo. 22 (3), 149-156
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月		学会名
III 学会および社会における主な活動			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬品物理化学	職名 助教	氏名 宿里 充穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年2月1日～	学部4～6年生の卒業研究指導。 配属直後には関連する英語論文の読み合わせなどを行い、研究に必要な最低限の知識の定着と、取り組み方の指導を行った。 学生が研究を遂行するにあたっては、極力、学生自ら実験計画を立てるように促し、自分で考える力を養うように努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Human whole-body biodistribution and dosimetry of a new PET tracer, [11C]ketoprofen methyl ester, for imagings of neuroinflammation.	共著	2014年4月	Nucl Med Biol.14, 00114-0.
（論文）神経炎症におけるシクロオキシゲナーゼのPET分子イメージング	共著	2014年3月	医学のあゆみ 248巻12号 907-911.
（論文）アルツハイマー病の治療薬、イメージング剤としてのNSAIDsの可能性	共著	2013年4月	PETジャーナル 21号 10-12.
（論文）Assessment of radioligands for PET imaging of cyclooxygenase-2 in an ischemic neuronal injury model.	共著	2013年10月	Brain Res. 1533, 152-62.
（論文）In vivo expression of cyclooxygenase-1 in activated microglia and macrophages during neuroinflammation visualized by PET with 11C-ketoprofen methyl ester.	共著	2011年6月	J Nucl Med. 52(7), 1094-101.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）多発性硬化症のPET診断		2014年8月	PETサマーセミナー2014
（演題名）演題タイトル未定 セッションタイトル：Immunology and Theranostics		2014年11月	Asia Regional Cooperative Council for Nuclear Medicine
III 学会および社会における主な活動			
該当なし			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬理学	職名 特任助教	氏名 高田 剛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2014年4月17日 ～5月22日	科目「薬理学実習」において、円滑な進行を促すための準備を行い、実習中は指導にあたる。また、実習終了時には、結果について考察するなどのディスカッションを行い理解を深めるようにする。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Inactivation of Ca ²⁺ /calmodulin-dependent protein kinase I by S-glutathionylation of the active-site cysteine residue	共著	2010年6月	FEBS Lett., 584 , 2478-2484
(論文) Calcium/calmodulin-dependent protein kinases as potential targets of nitric oxide	共著	2011年8月	Nitric Oxide., 25 , 145-152
(論文) Nitric oxide promotes nicotine-triggered ERK signaling via redox reactions in PC12 cells	共著	2011年10月	Nitric Oxide., 25 , 344-349
(論文) 90-kDa ribosomal S6 kinase 1 is inhibited by S-glutathionylation of its active-site cysteine residue during oxidative stress	共著	2013年6月	FEBS Lett., 587 , 1681-1686
(論文) Nitric oxide enhances increase in cytosolic Ca ²⁺ and promotes nicotine-triggered MAPK pathway in PC12 cells	共著	2013年11月	Nitric Oxide., 34 , 3-9
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) カルモデュリンキナーゼIVのシステイン過酸化修飾による活性制御		2014年5月	第14回日本NO学会学術集会
(演題名) Reversible inactivation of Ca ²⁺ /calmodulin-dependent protein kinase IV by reactive cysteine peresulfides generated from cystathionine γ -lyase and cystine		2014年6月	8th International Conference on the Biology, Chemistry and Therapeutic Application of Nitric Oxide
III 学会および社会における主な活動			
2009年11月～2014年5月現在	日本薬理学会会員		
2010年7月～2014年5月現在	日本生化学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬理学	職名 助教	氏名 土屋 幸弘
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年9月21日-10月19日	科目「薬理学実習」において、実習説明および指導を行なった。円滑に実習が進むよう具体的な指示を行なった。	
	2011年10月24日-11月24日	科目「薬理学実習」において、実習説明および指導を行なった。円滑に実習が進むよう具体的な指示を行なった。	
	2012年4月9日-5月10日	科目「薬理学実習」において、実習説明および指導を行なった。円滑に実習が進むよう具体的な指示を行なった。	
	2012年6月11日	科目「生物系特論」において、タンパク質に焦点を当てた授業を行った。分かりやすさに重点を置いたスライドを作成し行なった。	
	2013年4月15日-5月20日	科目「薬理学実習」において、実習説明および指導を行なった。円滑に実習が進むよう具体的な指示を行なった。	
	2014年4月14日-5月22日	科目「薬理学実習」において、実習説明および指導を行なった。円滑に実習が進むよう具体的な指示を行なった。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年9月31日	科目「薬理学実習」の実習書「薬理学実習指針」を作成した。	
	2011年10月3日	科目「薬理学実習」の実習書「薬理学実習指針」を作成した。	
	2012年3月19日	科目「薬理学実習」の実習書「薬理学実習指針」を作成した。	
	2013年3月25日	科目「薬理学実習」の実習書「薬理学実習指針」を作成した。	
	2014年3月24日	科目「薬理学実習」の実習書「薬理学実習指針」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Ubiquitin C-terminal Hydrolase L1 (UCH-L1) Acts as a Novel Potentiator of Cyclin-dependent Kinases to Enhance Cell Proliferation Independently of Its Hydrolase Activity.	共著	2013年5月	J. Biol. Chem., 288, 12615-12626.
（論文）90-kDa ribosomal S6 kinase 1 is inhibited by S-glutathionylation of its active-site cysteine residue during oxidative stress.	共著	2013年6月	FEBS Lett., 587, 1681-1686.
（論文）TDP-43 associates with stalled ribosomes and contributes to cell survival during cellular stress.	共著	2013年7月	J. Neurochem., 126, 288-300.

(論文) Nitric oxide enhances increase in cytosolic Ca ²⁺ and promotes nicotine-triggered MAPK pathway in PC12 cells.	共著	2013年11月	Nitric Oxide, 34 , 3-9.
(論文) Reactive cysteine persulfides and S-polythiolation regulate oxidative stress and redox signaling.	共著	2014年5月	Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A., 111 , 7606-7611.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) NOによる細胞内Ca ²⁺ 流入増強メカニズムの解明		2014年5月	第14回日本NO学会学術集会
(演題名) Role of nNOS expression in nicotine-induced cytosolic Ca ²⁺ influx in PC12 cells.		2014年6月	The 8th International Conference on the Biology, Chemistry and Therapeutic Application of Nitric Oxide
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2001年3月～2014年5月 現在	日本薬学会会員		
2002年10月～2014年5月 現在	日本生化学会会員		
2010年4月～2014年5月 現在	日本NO学会会員		
2010年4月～2014年5月 現在	日本薬理学会会員		
2013年6月～2014年5月 現在	日本酸化ストレス学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬化学	職名 助教	氏名 橋本 善光
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Total Synthesis and Absolute Stereochemistry of Seragakinone A	共著	2011年2月	Angew. Chem. Int. Ed., 50, 2297-2301 (2011).
(論文) Synthesis of isoxazoles en route to semi-aromatized polyketides: dehydrogenation of benzonitrile oxide-para-quinone acetal cycloadducts	共著	2012年5月	Org. Biomol. Chem., 10, 6003-6009 (2012).
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)			
(演題名)			
III 学会および社会における主な活動			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬物治療学	職名 助教	氏名 濱田 浩一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年7月1日	科目「分子腫瘍学」において、視覚資料を多用し、腫瘍学の基礎から最新の知見を講義した。
2 作成した教科書、教材、参考書			特になし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Combined deficiency for MAP kinase-interacting kinase 1 and 2 (Mnk1 and Mnk2) delays tumor development.	共著	2010年8月	Proc Natl Acad Sci U S A. 2010;107(32):13984-90
Regulation of the MDM2-P53 pathway and tumor growth by PICT1 via nucleolar RPL11.	共著	2011年7月	Nat Med. 2011;17(8):944-51
iRhom2 regulation of TACE controls TNF-mediated protection against Listeria and responses to LPS.	共著	2012年1月	Science. 2012;335(6065):229-32
Cancer susceptibility and embryonic lethality in Mob1a/1b double-mutant mice.	共著	2012年11月	J Clin Invest. 2012;122(12):4505-18
Flotillin-2 deficiency leads to reduced lung metastases in a mouse breast cancer model.	共著	2013年10月	Oncogene. 2013;32(41):4989-94
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Critical Role of the PI3K/PTEN/GSK-3 Signaling Pathway in HIV latent infected cells		2012年12月	日本生化学会
IP3 受容体結合タンパク質IRBIT による細胞遊走能の解析		2013年2月	文部科学省科学研究費 新学術領域研究「個体レベルでのがん研究支援活動」
阿蘇黄土による病原性大腸菌の増殖抑制効果の検討		2014年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
2011年5月～2014年5月 現在		財団法人日本がん予防協会 理事	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	昭和薬科大学	研究室等の名	薬剤師実務教育	職名	助教	氏名	太田 綾子
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 <							

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の名 薬剤師実務教育	職名 助教	氏名 中村 美樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2011年9月8日～ 2011年10月28日	科目「実務実習事前実習Ⅱ」において、計数調剤などの実習教育を行った。新たに模擬処方せんを作成し、随時フィードバックを行いながら実習した。
		2012年2月27日 ～2012年3月6日	科目「実務実習事前実習Ⅰ」において、製剤調製の実習教育を行った。製剤についての概要を説明し、理解度を高めるために実習書は穴埋め方式を用いて学習させた。また、実際に現場で処方される軟膏剤の調剤を指導した。
		2012年6月4日～ 2012年6月28日	科目「実務実習事前実習Ⅰ」において、患者対応と服薬指導についての実習教育を行った。小グループに分け、6症例を用いてロールプレイを行った。
		2012年7月3日	科目「医薬品情報学」において、医薬品情報と文献情報の検索に関する演習を行った。2課題を提示し、各学生にフィードバックを行った。
		2012年9月6日～ 2012年10月30日	科目「実務実習事前実習Ⅱ」において、OTC医薬品の提供、散剤調製などの実習教育を行った。OTC医薬品の提供では新たに症例を作成し、小グループに分けてロールプレイを行った。
		2012年9月21日 2012年9月28日	科目「実務実習事前実習Ⅱ」において、「OTC医薬品と副作用」及び「OTC医薬品を販売する-かぜ薬の選び方-」に関する講義および演習を行った。かぜ薬の選択については、8症例を用意しクイズ形式で回答させた。
		2013年2月25日 ～2013年2月28日	科目「実務実習事前実習Ⅰ」において、製剤調製の実習教育を行った。製剤についての概要を説明し、理解度を高めるために実習書は穴埋め方式を用いて学習させた。また、実際に現場で処方される軟膏剤の調剤を指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年10月1日	科目「実務実習事前実習Ⅱ」の実習書「平成23年度実務実習事前学習 総合実習 方略」を作成した。
		2012年2月1日	科目「実務実習事前実習Ⅰ」の実習書「平成23年度実務実習事前学習(3年次導入実習)実習テキスト」を作成した。
		2012年5月1日	科目「実務実習事前実習Ⅰ」の実習書「平成24年度前期実務実習事前学習 実習テキスト」を作成した。
		2012年9月1日	科目「実務実習事前実習Ⅱ」の実習書「平成24年度後期実務実習事前学習 実習テキスト」を作成した。
		2012年10月1日	科目「実務実習事前実習Ⅱ」の実習書「平成24年度実務実習事前学習 総合実習 方略」を作成した。
		2013年2月1日	科目「実務実習事前実習Ⅰ」の実習書「平成24年度実務実習事前学習(3年次導入実習)実習テキスト」を作成した。
		2014年5月1日	科目「実務実習事前実習Ⅰ」の実習書「平成26年度前期実務実習事前学習 実習テキスト」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Effects and Problems of Education from First Clinical Pharmacy Training at Hospital in the Six-Year System of Pharmaceutical Education: Questionnaire on Students and Instructing Pharmacists	共著	2012年4月	医薬品相互作用研究, 35(3), 143-152.
地域の薬局薬剤師に対するバイタルサインチェック・フィジカルアセスメント講習会の評価（第1報）	共著	2013年2月	昭和薬科大学紀要（人文・社会・自然）, 47, 1-9.
初年度薬局実務実習の教育効果と問題点の検討 学生及び指導薬剤師のアンケート調査	共著	2013年2月	昭和薬科大学紀要（人文・社会・自然）, 47, 33-42.
病院実務実習における薬学生の自己評価と指導薬剤師の学生評価の比較による到達度不十分な実習項目の分析	共著	2014年2月	昭和薬科大学紀要（人文・社会・自然）, 48, 29-40.
薬局実務実習における薬学生の自己評価と指導薬剤師の学生評価の比較による到達度不十分な実習項目の分析	共著	2014年2月	昭和薬科大学紀要（人文・社会・自然）, 48, 13-27.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 生化学	職名 特任助教	氏名 中野 なおこ
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) TMEPAI, a transmembrane TGF- β -induced protein, sequesters Smad proteins from active participation in TGF- β signaling.	共著	2010年1月	Molecular Cell vol. 37: 123-134
(論文) Requirement of TCF7L2 for TGF- β -dependent transcriptional activation of the TMEPAI gene.	共著	2010年12月	The Journal of Biological Chemistry vol. 285: 38023-38033
(論文) Interference of E2-2-mediated effect in endothelial cells by FAM96B through its limited expression of E2-2.	共著	2011年10月	Cancer Science vol. 102: 1808-1814
(論文) C18ORF1: A novel negative regulator of TGF- β signaling.	共著	2014年3月	The Journal of Biological Chemistry vol. 289: 12680-12692
(論文) TGF- β signaling cooperates with AT motif-binding factor-1 (ATBF1) for repression of the α -fetoprotein promoter.	共著	2014年	Journal of Signal Transduction in press
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) The functional relationship between C18ORF1 and TMEPAI in TGF- β /Smad signaling		2014年5月	TGF- β meeting
(演題名) TMEPAI family; TGF- β negative regulator		2014年9月	日本癌学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2007年5月～2014年5 現在	日本癌学会会員		
2008年7月～2014年5 現在	日本分子生物学会会員		
2013年7月～2014年5 現在	日本生化学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬化学	職名 特任博士 研究員	氏名 伴 慎太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Structure-based design, synthesis, and nonalcoholic steatohepatitis (NASH)-preventive effect of phenylpropanoic acid peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR) α -selective agonists	共著	2011年4月	Bioorg. Med. Chem., 2011, 19 (10), 3183-3191.
(論文) Bidirectional fluorescence properties of pyrene-based peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR) α/δ dual agonist	共著	2012年4月	Bioorg. Med. Chem., 2012, 20 (11), 3460-3464.
(論文) Peroxisome proliferator-activated receptor delta antagonists inhibit hepatitis C virus RNA replication	共著	2013年7月	Bioorg. Med. Chem. Lett., 2013, 23 (17), 4774-4778.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。